

令和6年度
全国学力・学習状況調査
長野県の結果

長野県教育委員会

目 次

I	全国学力・学習状況調査の実施状況	1
II	全国学力・学習状況調査からみた長野県の成果と課題	2
1	教科に関する調査の結果と分析	2
(1)	令和6年度 教科に関する調査の結果と分析	
(2)	これまで（平成31年度～令和6年度）の調査結果の経年変化と分析	
(3)	過去5回（平成31年度～令和6年度）の調査結果の経年変化と分析（標準化得点）	
(4)	過去5回（平成31年度～令和6年度）の調査結果の経年変化と分析（平均正答率・無解答率）	
2	質問紙調査の結果と分析	18
(1)	令和6年度 質問調査の結果と分析	
(2)	過去3回（令和4年度～令和6年度）の調査結果の経年変化と分析	
III	全国の分析との比較	25
1	教科に関する調査結果	26
2	学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の取組状況	28
(1)	主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善①～④	
(2)	個別最適な学び・協働的な学びに関する状況	
(3)	カリキュラム・マネジメントに関する状況	
3	教科に関する質問調査の状況 国語	34
(1)	児童の興味関心と小学校の指導状況	
(2)	生徒の興味関心と中学校の指導状況	
4	教科に関する質問調査の状況 算数・数学	36
(1)	児童の興味関心と小学校の指導状況	
(2)	生徒の興味関心と中学校の指導状況	
5	ICTを活用した学習状況	38
(1)	ICTの活用状況等①～③	
(2)	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実にかかわるICTの活用状況等①②	
(3)	ICTの活用を推進するための有効な取組	
6	児童生徒の挑戦心、自己有用感、幸福感等に関する状況	44
7	幸福感に関する質問とのクロス集計	46

I 全国学力・学習状況調査の実施状況

1 実施日 令和6年4月18日（木）

2 対象学年 小学校第6学年、特別支援学校小学部第6学年
中学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年

3 調査事項及び手法

(1) 児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査

(ア) 国語、算数・数学の2教科について、調査を実施した。

(イ) 出題範囲は、調査する学年の前年度までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの教科に関し、以下のとおりであった。

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

(ウ) 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととし、出題形式については、記述式の問題を一定割合で導入した。

イ 質問調査（児童・生徒質問調査）

質問調査は、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査を、原則すべての児童生徒を対象に、児童生徒の活用する ICT 端末を用いたオンラインによる回答方式で実施した。

(2) 学校に対する質問調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問調査を実施した。

4 令和6年4月18日（木）に調査を実施した学校・児童生徒数

〔表 I〕 調査実施校数及び児童生徒数

	小学校		中学校	
	実施校数	児童数	実施校数	生徒数
長野県（公立）	350 校	15,205 人	188 校	14,719 人
全 国（公立）	18,529 校	947,579 人	9,347 校	875,952 人

※調査を実施した児童生徒数は、回収された解答用紙が最も多かった教科の解答用紙の枚数で算出した。

※全国学力・学習状況調査の教科調査問題、質問調査問題、全国の様子は、国立教育政策研究所のホームページ（<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>）を参照のこと。

II 全国学力・学習状況調査からみた長野県の成果と課題

1 教科に関する調査の結果と分析

(1) 令和6年度 教科に関する調査の結果と分析

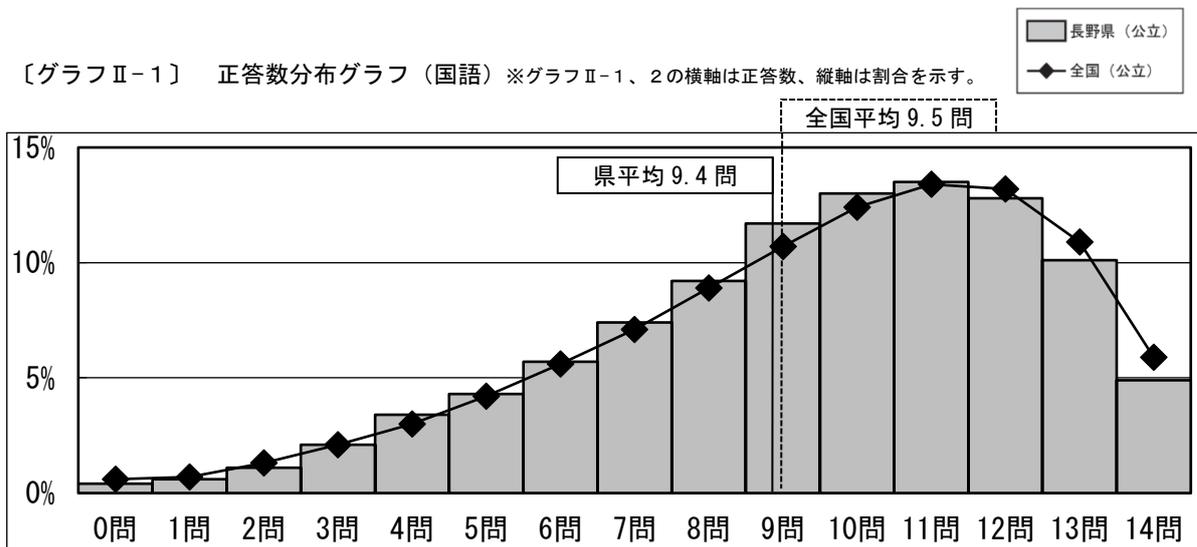
ア 小学校における平均正答率及び平均正答数、正答数分布と分析

(ア) 平均正答率及び平均正答数、正答数分布

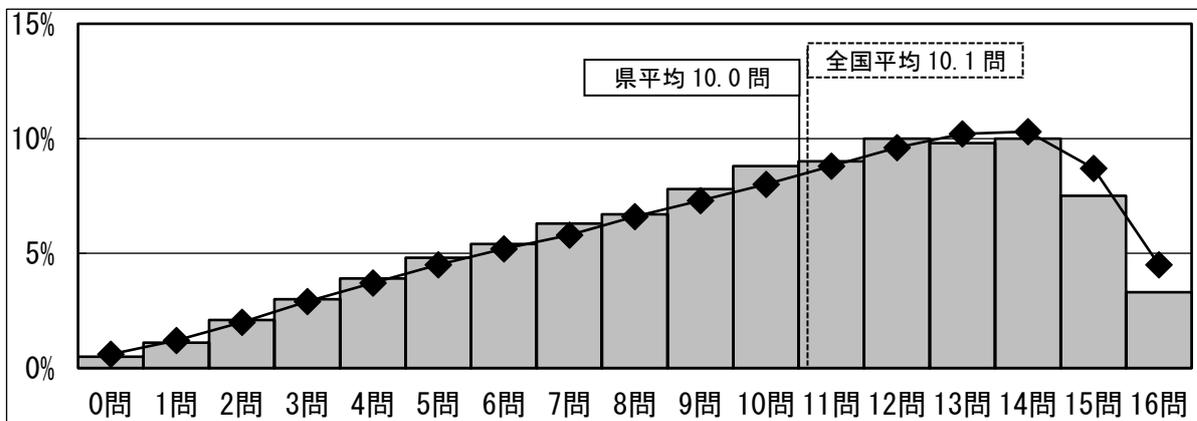
〔表Ⅱ-1〕 教科に関する調査の平均正答率及び平均正答数（小学校）

科目	区分	平均正答率	平均正答数／全問数
国語	長野県（公立）	67%	9.4／14問
	全国（公立）	67.7%	9.5／14問
算数	長野県（公立）	62%	10.0／16問
	全国（公立）	63.4%	10.1／16問

〔グラフⅡ-1〕 正答数分布グラフ（国語）※グラフⅡ-1、2の横軸は正答数、縦軸は割合を示す。



〔グラフⅡ-2〕 正答数分布グラフ（算数）



(イ) 分析

- ・国語と算数の平均正答数は、全国と同程度である。(表Ⅱ-1)
- ・国語と算数の正答数の分布は、全国とほぼ同様の傾向である。(グラフⅡ-1、2)
- ・国語では、正答数が7問から10問の児童の割合が全国平均よりも高く、正答数が12問以上の児童の割合が全国平均よりも低い。(グラフⅡ-1)
- ・算数では、正答数が9問から12問の児童の割合が全国平均よりも高く、正答数が13問以上の児童の割合が全国平均よりも低い。(グラフⅡ-2)

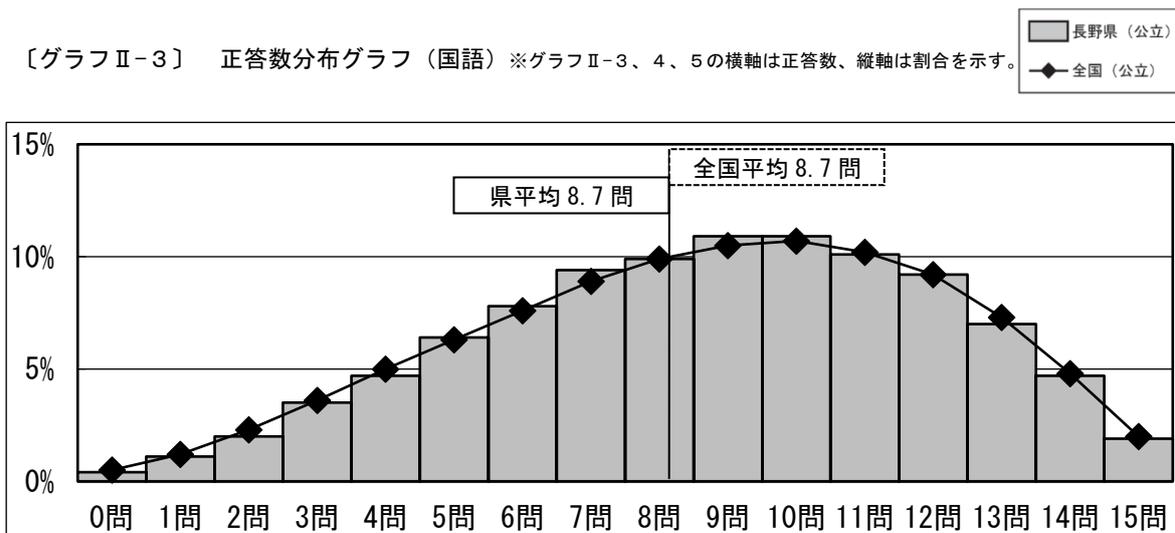
イ 中学校における平均正答率及び平均正答数、正答数分布と分析

(ア) 平均正答率及び平均正答数、正答数分布

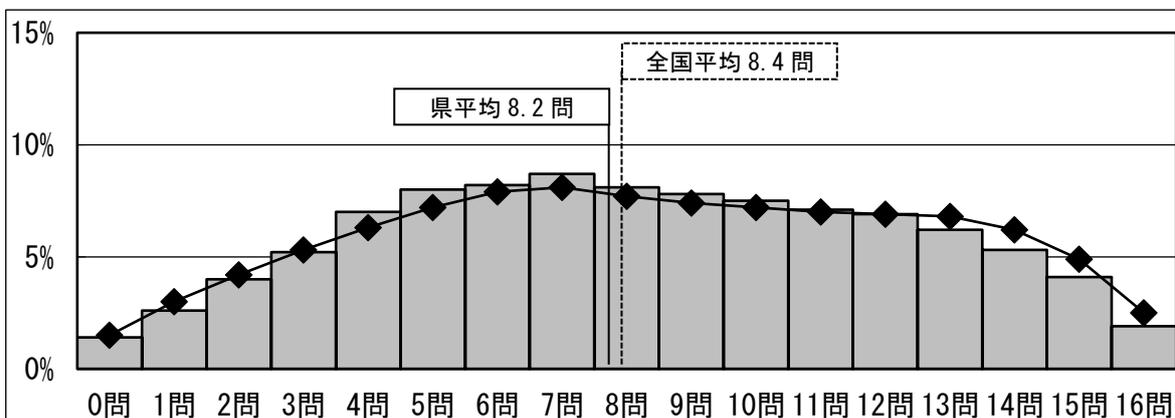
〔表Ⅱ-2〕 教科に関する調査の平均正答率及び平均正答数(中学校)

科目	区分	平均正答率	平均正答数/全問数
国語	長野県(公立)	58%	8.7/15問
	全国(公立)	58.1%	8.7/15問
数学	長野県(公立)	51%	8.2/16問
	全国(公立)	52.5%	8.4/16問

〔グラフⅡ-3〕 正答数分布グラフ(国語) ※グラフⅡ-3、4、5の横軸は正答数、縦軸は割合を示す。



〔グラフⅡ-4〕 正答数分布グラフ(数学)



(イ) 分析

- ・国語の平均正答数は、全国と同程度である。(表Ⅱ-2)
- ・数学の平均正答数は0.2ポイント、全国を下回った。(表Ⅱ-2)
- ・国語、数学の正答数の分布は、全国とほぼ同様の傾向である。(グラフⅡ-3、4)
- ・国語では、全国平均とほぼ同じ分布となっている。(グラフⅡ-3)
- ・数学では、正答数が4問から9問の生徒の割合が全国平均よりも高く、13問以上の生徒の割合が全国平均よりも低い。(グラフⅡ-4)

(2) これまで（平成 31 年度～令和 6 年度）の調査結果の経年変化と分析

ア 小学校における経年変化（平均正答率）と分析

(ア) 平均正答率

〔表Ⅱ-3〕 教科に関する調査の平均正答率の経年変化（小学校）

教科	県・全国	H31 (R元)	R3	R4	R5	R6
国語	県(公立)	64	63	66	66	67
	全国(公立)	64	65	66	67	68
	全国との差	0	-2	0	-1	-1
算数	県(公立)	66	70	62	61	62
	全国(公立)	67	70	63	63	63
	全国との差	-1	0	-1	-2	-1
理科	県(公立)			63		
	全国(公立)			63		
	全国との差			0		

※全国との差を示すために、全国（公立）の値は四捨五入し整数値で示してある。

(イ) 分析 ◇：成果 ◆：課題

◆国語は、全国の平均正答率との差は、令和 6 年度は令和 5 年度と同値の -1 である。

(表Ⅱ-3)

◆算数は、全国の平均正答率との差は、令和 5 年度は -2 であったが、令和 6 年度は -1 である。(表Ⅱ-3)

イ 中学校における経年変化（平均正答率）と分析

(ア) 平均正答率

〔表Ⅱ-4〕 教科に関する調査の平均正答率の経年変化（中学校）

教科	県・全国	H31 (R元)	R3	R4	R5	R6
国語	県(公立)	73	65	68	69	58
	全国(公立)	73	65	69	70	58
	全国との差	0	0	-1	-1	0
数学	県(公立)	60	57	51	50	51
	全国(公立)	60	57	51	51	53
	全国との差	0	0	0	-1	-2
理科	県(公立)			50		
	全国(公立)			49		
	全国との差			+1		
英語	県(公立)	54			43	
	全国(公立)	56			46	
	全国との差	-2			-3	

※全国との差を示すために、全国（公立）の値は四捨五入し整数値で示してある。

(イ) 分析 ◇：成果 ◆：課題

◇国語は、全国の平均正答率との差は、令和 5 年度は -1 であったが、令和 6 年度は 0 である。(表Ⅱ-4)

◆数学は、全国の平均正答率との差は、令和 4 年度が 0、令和 5 年度が -1 であったが、令和 6 年度は -2 である。(表Ⅱ-4)

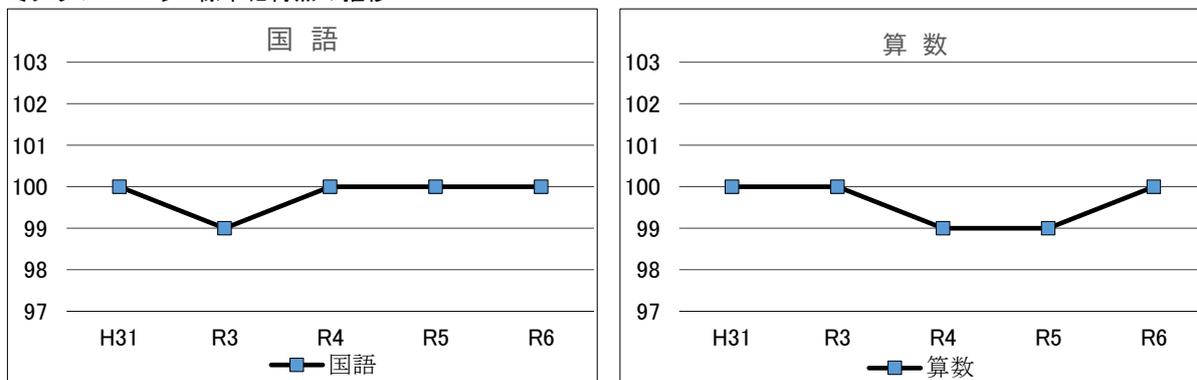
(3) 過去5回（平成31年度～令和6年度^{※1}）の調査結果の経年変化と分析 ※1 令和2年度は未実施

ア 小学校の経年変化（標準化得点^{※2}）と分析

※2 標準化得点…各年度の調査は問題が異なることから、平均正答率による単純な比較ができな
いため、年度間の相対的な比較をすることが可能となるよう、各年度の全国（公
立）の平均正答数がそれぞれ100となるように標準化した得点。

(ア) 標準化得点

〔グラフⅡ-6〕 標準化得点の推移



(イ) 分析 ◇：成果 ◆：課題

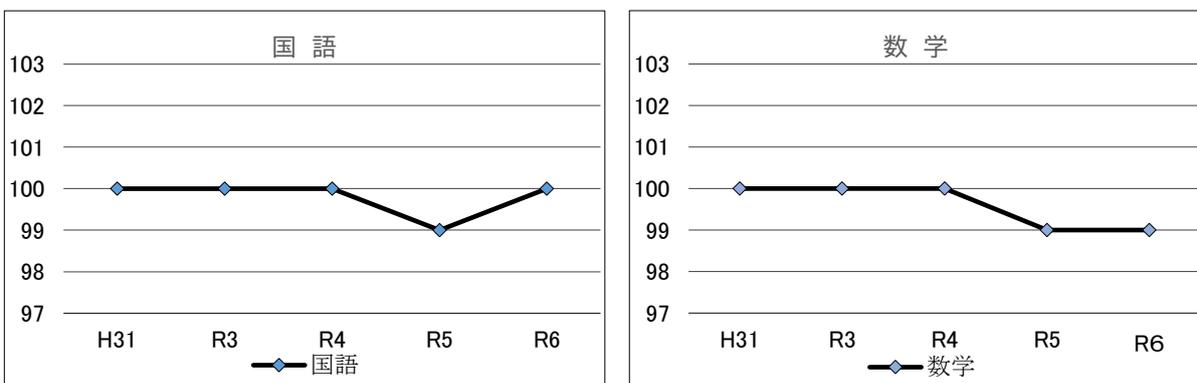
◇国語の標準化得点は、令和6年度は、令和5年度と同値で100である。(グラフⅡ-6)

◇算数の標準化得点は、令和4年度、令和5年度は99であったが、令和6年度は100に
上がった。(グラフⅡ-6)

イ 中学校の経年変化（標準化得点^{※2}）と分析

(ア) 標準化得点

〔グラフⅡ-7〕 標準化得点の推移



(イ) 分析 ◇：成果 ◆：課題

◇国語の標準化得点は、令和5年度は99であったが、令和6年度は100に上がった。

(グラフⅡ-7)

◆数学の標準化得点は、令和6年度は、令和5年度と同値で99である。(グラフⅡ-7)

(4) 過去5回（平成31年度～令和6年度^{※1}）の調査結果の経年変化と分析 ※1 令和2年度は未実施

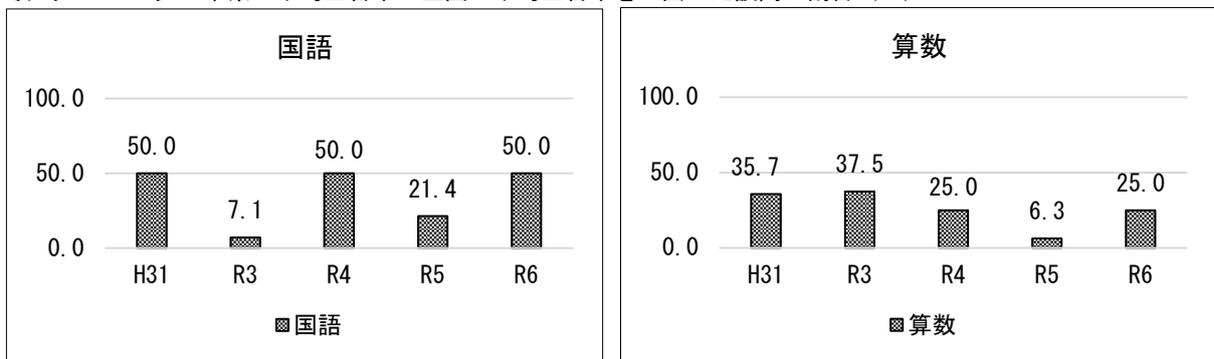
ア 小学校の経年変化（全国の平均正答率を上回った設問と無解答率）と分析

(ア) 全国の平均正答率を上回った設問数と無解答率

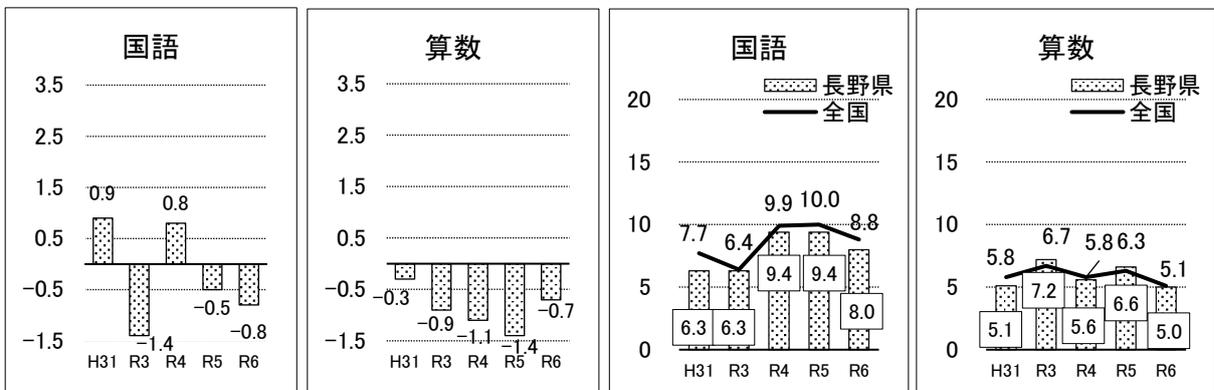
〔表Ⅱ-5〕 本県の平均正答率が全国の平均正答率を上回った設問数（同値は除く）

	国語	算数
平成31年度	7 / 14	5 / 14
令和3年度	1 / 14	6 / 16
令和4年度	7 / 14	4 / 16
令和5年度	3 / 14	1 / 16
令和6年度	7 / 14	4 / 16

〔グラフⅡ-8〕 本県の平均正答率が全国の平均正答率を上回った設問の割合（％）



〔グラフⅡ-9〕 記述問題の全国平均正答率との差（％）



(イ) 分析 ◇：成果 ◆：課題

◇国語、算数ともに、令和6年度の平均正答率が全国を上回った設問の割合は、令和5年度より増加している。(グラフⅡ-8)

◆国語について、令和6年度の記述問題の平均正答率は全国を下回っている。(グラフⅡ-9)

◆算数について、令和6年度の記述問題の平均正答率は全国を下回り、平成31年度以降、全国より低い状態が続いている。(グラフⅡ-9)

◇国語について、記述問題における平均無解答率は、令和6年度、全国平均を下回っている。

(グラフⅡ-10)

◆算数について、記述問題における平均無解答率は、令和6年度、全国平均を上回っている。

(グラフⅡ-10)

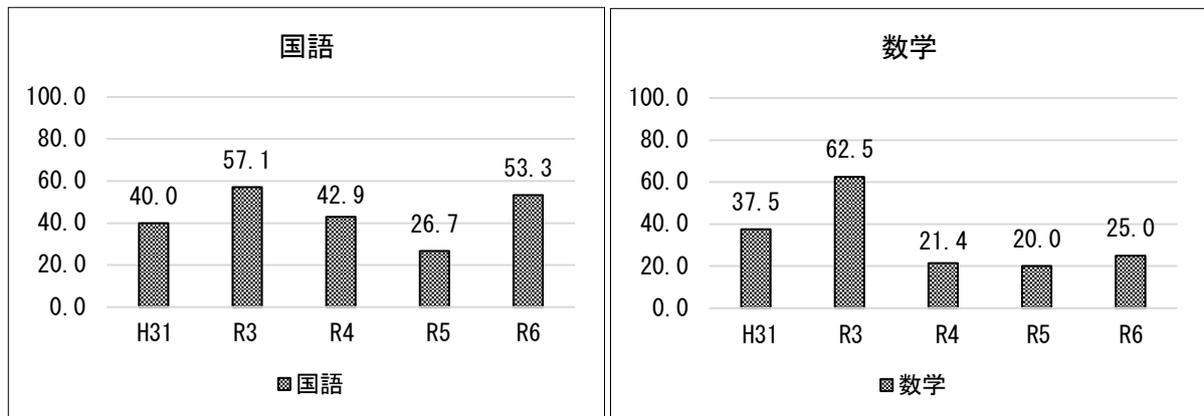
イ 中学校の経年変化（全国の平均正答率を上回った設問と無解答率）と分析

(ア) 全国の平均正答率を上回った設問と無解答率

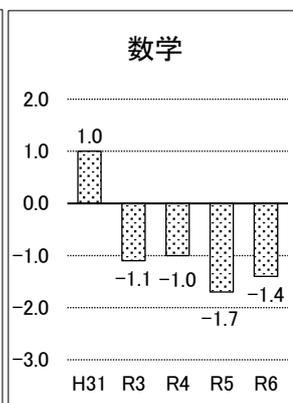
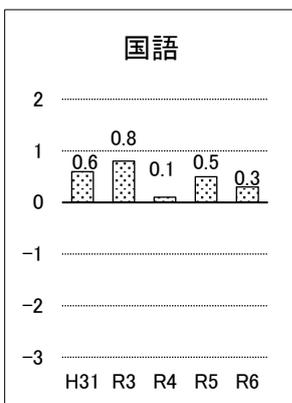
〔表Ⅱ-6〕 本県の平均正答率が全国の平均正答率を上回った設問数（同値は除く）

	国語	数学
平成 31 年度	4 / 10	6 / 16
令和 3 年度	8 / 14	10 / 16
令和 4 年度	6 / 14	3 / 14
令和 5 年度	4 / 15	3 / 15
令和 6 年度	8 / 15	4 / 16

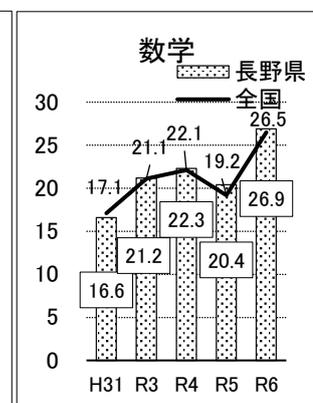
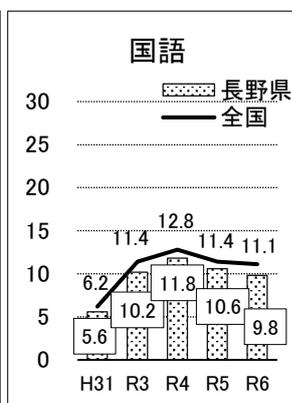
〔グラフⅡ-11〕 本県の平均正答率が全国の平均正答率を上回った設問の割合（％）



〔グラフⅡ-12〕 記述問題の全国平均正答率との差（％）



〔グラフⅡ-13〕 記述問題における平均無解答率（％）



(イ) 分析 ◇：成果 ◆：課題

◇国語、数学ともに令和6年度の平均正答率が全国を上回った設問の割合は、令和5年度より増加している。(グラフⅡ-11)

◇国語について、平成31年度以降、記述問題の平均正答率は全国を上回っており、平均無解答率は、全国を下回っている。(グラフⅡ-12、グラフⅡ-13)

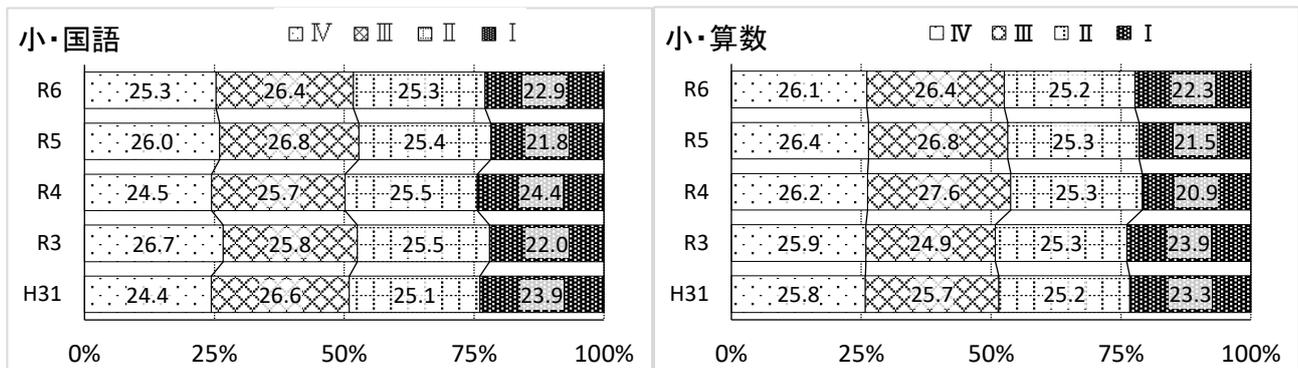
◆数学について、令和6年度の記述問題の平均正答率は、全国を下回っており、平均無解答率は、全国を上回っている。(グラフⅡ-12、グラフⅡ-13)

ウ 小学校の経年変化（分布に着目した経年の状況）と分析

(ア) 分布に着目した経年の状況

全国の受検者を正答数の多い順に並べ、上位から 25%ずつ 4 分割(境界を含む階級の度数を按分することで、4 等分となるよう補正)し、それぞれの区分を I（上位 25%以内）、II（25%～50%）、III（50%～75%）、IV（75%～100%）とした上で、各区分に入る長野県の児童の割合を求めた。

〔グラフⅡ-14〕 分布に着目した経年の状況



※それぞれの帯グラフの合計値は、計算の都合上、100にならない場合もある。(例：99.9、100.1等)

(イ) 分析 ◇：成果 ◆：課題

◇国語は、I層の割合が令和5年度よりも増加し、III層及びIV層の割合が令和5年度よりも減少したことから、上位層の割合が令和5年度と比べて増加し、下位層の割合が令和5年度よりも減少していることがわかる。(グラフⅡ-14)

◇算数は、I層の割合が令和5年度よりもやや増加し、III層及びIV層の割合が令和5年度よりもやや減少したことから、上位層の割合が令和5年度と比べてやや増加し、下位層の割合が令和5年度よりもやや減少していることがわかる。(グラフⅡ-14)

◆国語、算数共に、I層の割合が25%を下回り、IV層の割合が25%を上回っている。

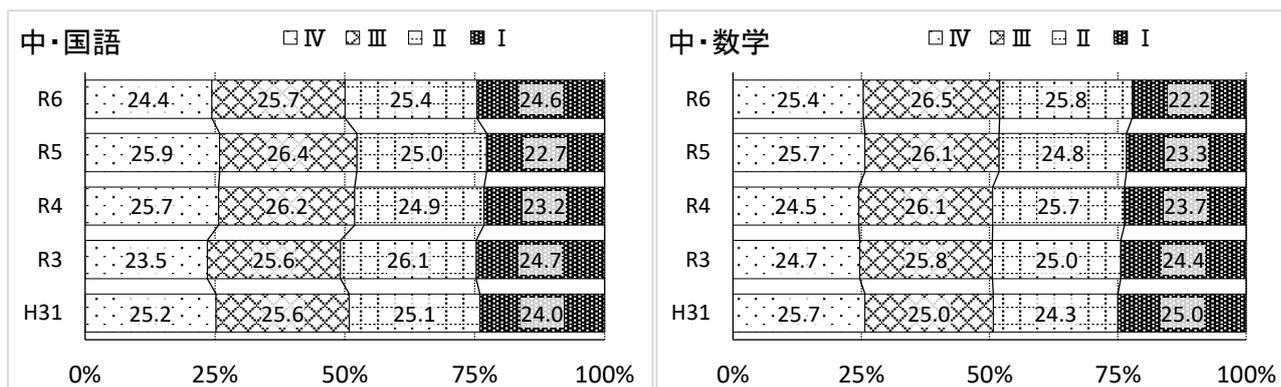
(グラフⅡ-14)

エ 中学校の経年変化（分布に着目した経年の状況）と分析

(ア) 分布に着目した経年の状況

全国の受検者を正答数の多い順に並べ、上位から 25%ずつ 4 分割(境界を含む階級の度数を按分することで、4 等分となるよう補正)し、それぞれの区分を I（上位 25%以内）、II（25%～50%）、III（50%～75%）、IV（75%～100%）とした上で、各区分に入る長野県の生徒の割合を求めた。

〔グラフⅡ-15〕 分布に着目した経年の状況



※それぞれの帯グラフの合計値は、計算の都合上、100にならない場合もある。(例：99.9、100.1等)

(イ) 分析 ◇：成果 ◆：課題

◇国語は I 層の割合が令和 5 年度よりも増加し、III 層及び IV 層の割合が令和 5 年度よりも減少したことから、上位層の割合が令和 5 年度と比べて増加し、下位層の割合が令和 5 年度よりも減少していることがわかる。(グラフⅡ-15)

◆数学は I 層の割合が令和 5 年度よりも減少・II 層の割合が令和 5 年度よりも増加し、III 層及び IV 層の割合が令和 5 年度と比べて変化が少ないことから、上位層と下位層の割合は令和 5 年度とほぼ同じことがわかる。(グラフⅡ-15)

◆国語、数学共に、I 層の割合が 25%を下回る状態が続いている。(グラフⅡ-15)

オ 小学校国語の経年変化と分析

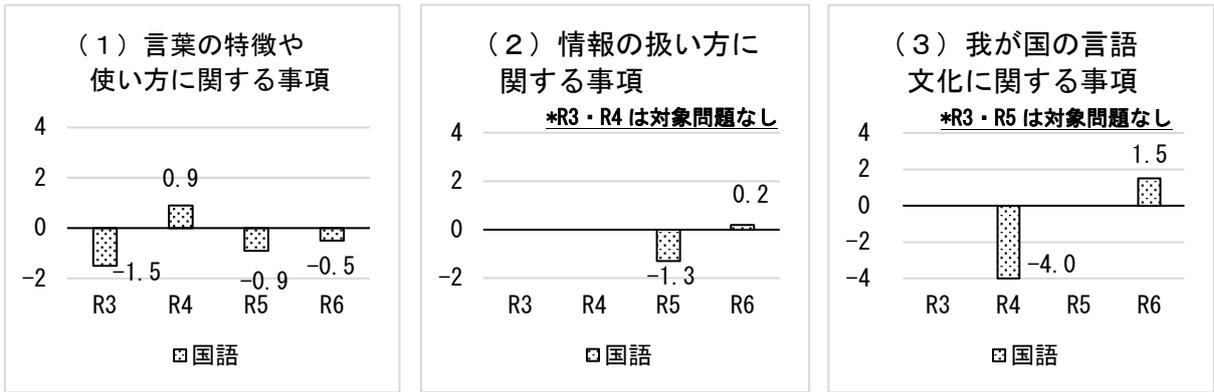
(ア) 内容、評価の観点、問題形式ごとの経年変化の状況

令和 3 年度*3 から令和 6 年度までの学習指導要領の内容、評価の観点、問題形式ごとの正答率について、全国の平均正答率と比較した。

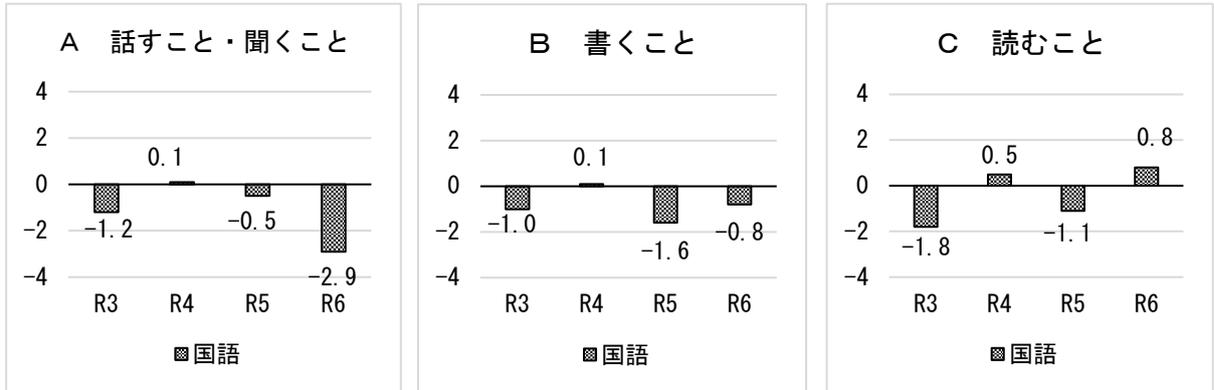
※3・・・令和 3 年度から、学習指導要領の内容、評価の観点等が変更しているため、4 年分の結果で分析。

〔グラフⅡ-16〕 学習指導要領の内容ごとの本県の平均正答率と全国平均正答率との差（％）

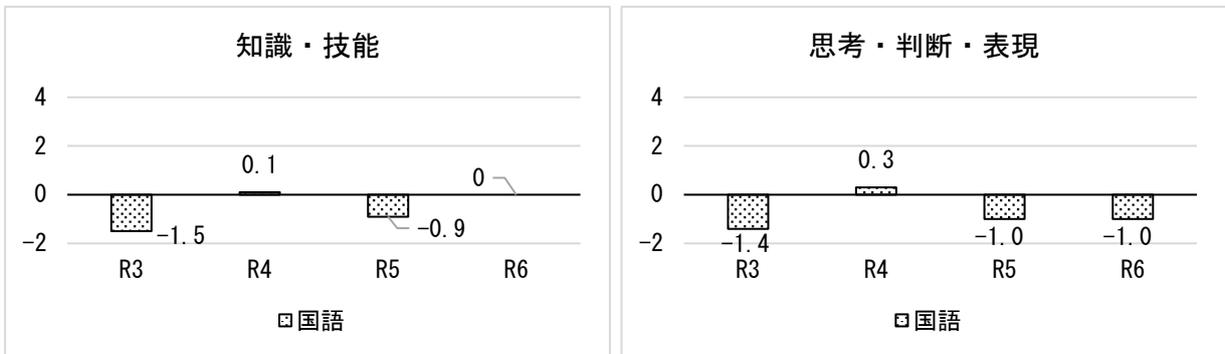
【知識及び技能】



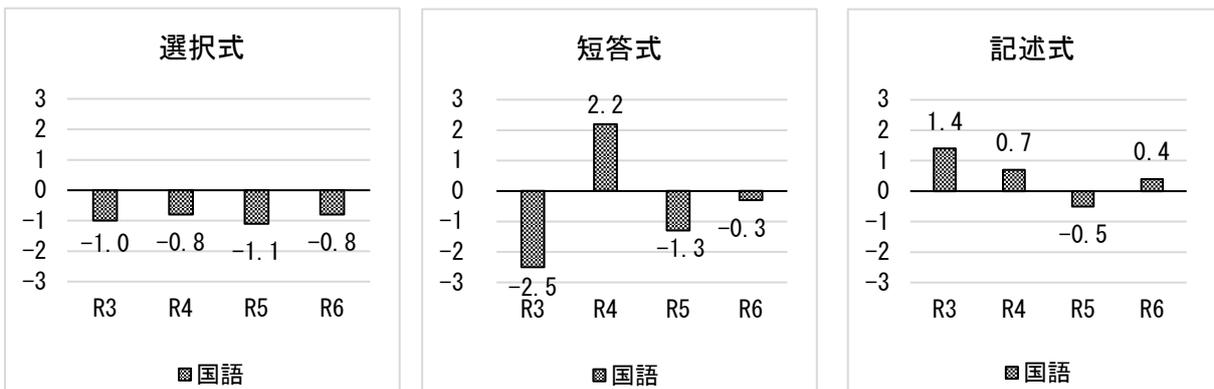
【思考力、判断力、表現力等】



〔グラフⅡ-17〕 評価の観点ごとの本県の平均正答率と全国平均正答率との差（％）



〔グラフⅡ-18〕 問題形式ごとの本県の平均正答率と全国平均正答率との差（％）



(イ) 分析 ◇：成果 ◆：課題

◇情報の扱い方に関する事項、我が国の言語文化に関する事項の平均正答率は、全国を上回っている。(グラフⅡ-16)

◆言葉の特徴や使い方に関する事項の平均正答率は、全国を下回っている。(グラフⅡ-16)

◇読むことの平均正答率は、全国を上回っている。(グラフⅡ-16)

◆話すこと・聞くこと、書くこと及び評価の観点の思考・判断・表現の平均正答率は、全国を下回っている。(グラフⅡ-16、17)

◇記述式の平均正答率は、全国を上回っている。(グラフⅡ-18)

◆選択式及び短答式の平均正答率は、全国を下回っている。(グラフⅡ-18)

カ 中学校国語の経年変化と分析

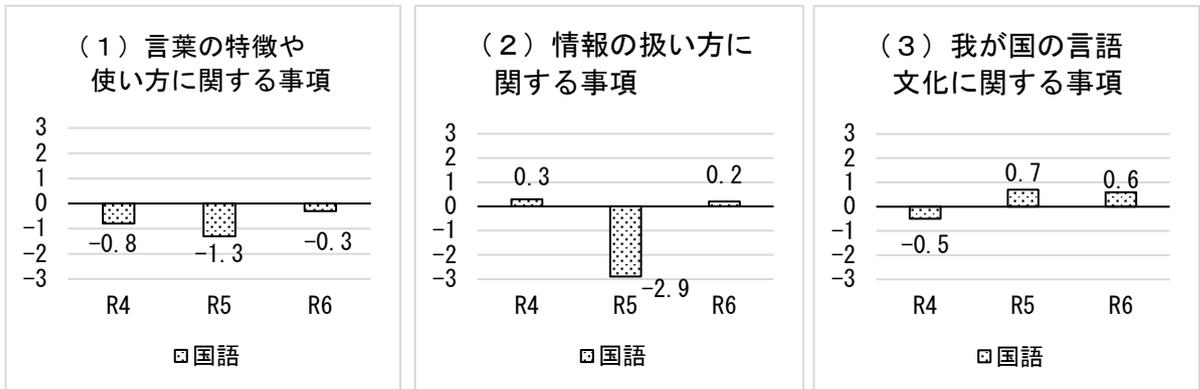
(ア) 内容、評価の観点、問題形式ごとの経年変化の状況

小学校国語と同様に、中学校国語についても令和4年度^{※4}から令和6年度までの学習指導要領の内容、評価の観点、問題形式ごとの正答率について、全国の平均正答率と比較した。

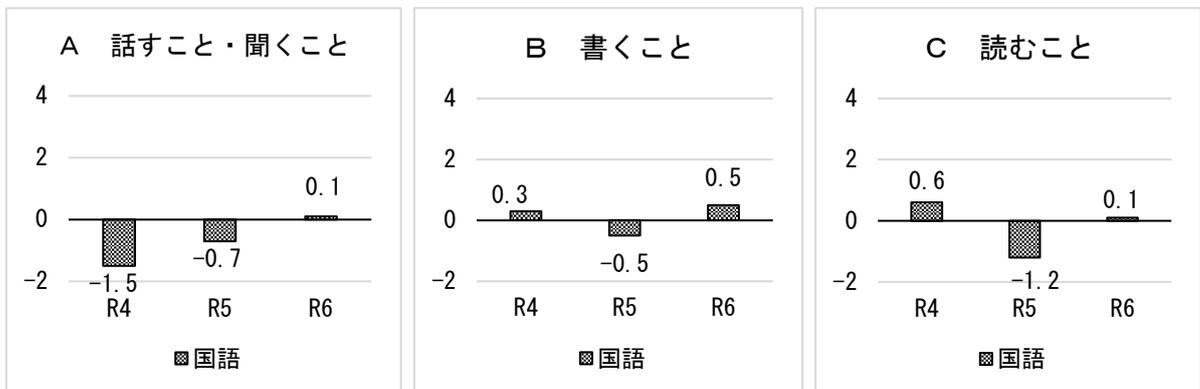
※4・・・令和4年度から、学習指導要領の内容、評価の観点等が変更しているため、3年分の結果で分析。

【グラフⅡ-19】 学習指導要領の内容ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差(%)

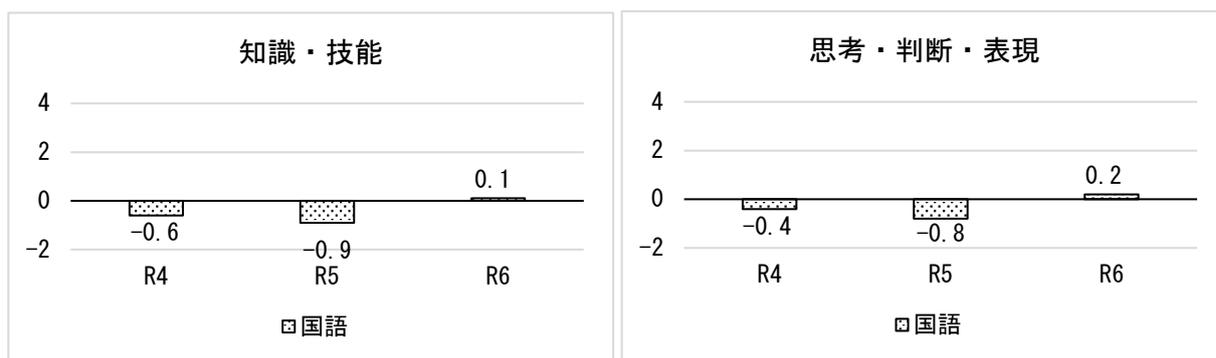
【知識及び技能】



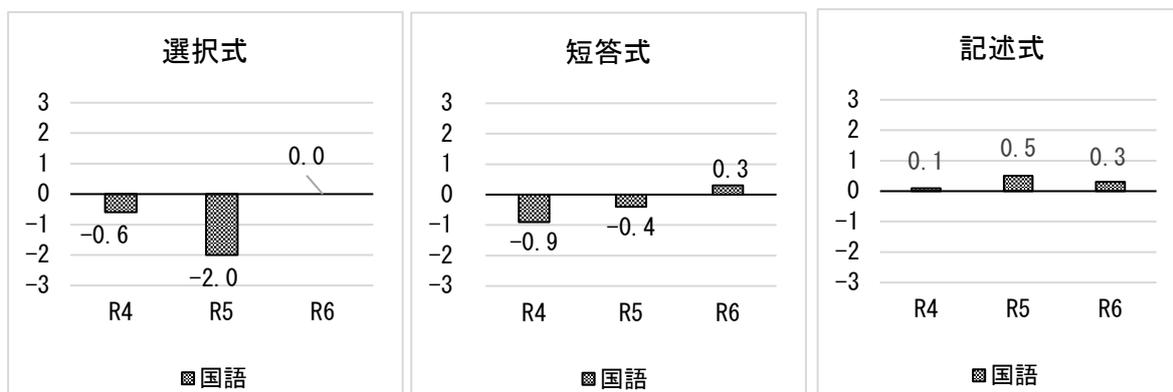
【思考力、判断力、表現力等】



〔グラフⅡ-20〕 評価の観点ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差（％）



〔グラフⅡ-21〕 問題形式ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差（％）



(イ) 分析 ◇：成果 ◆：課題

◇情報の扱い方に関する事項及び我が国の言語文化に関する事項の平均正答率は、全国を上回っている。(グラフⅡ-19)

◆言葉の特徴や使い方に関する事項の平均正答率は、全国を下回っている。(グラフⅡ-19)

◇話すこと・聞くこと、書くこと及び評価の観点の知識・技能、思考・判断・表現の平均正答率は、全国を上回っている。(グラフⅡ-19・20)

◇短答式の平均正答率は、全国を上回っている。(グラフⅡ-21)

◇記述式の平均正答率は、令和4年度から全国を上回る状況が続いている。(グラフⅡ-21)

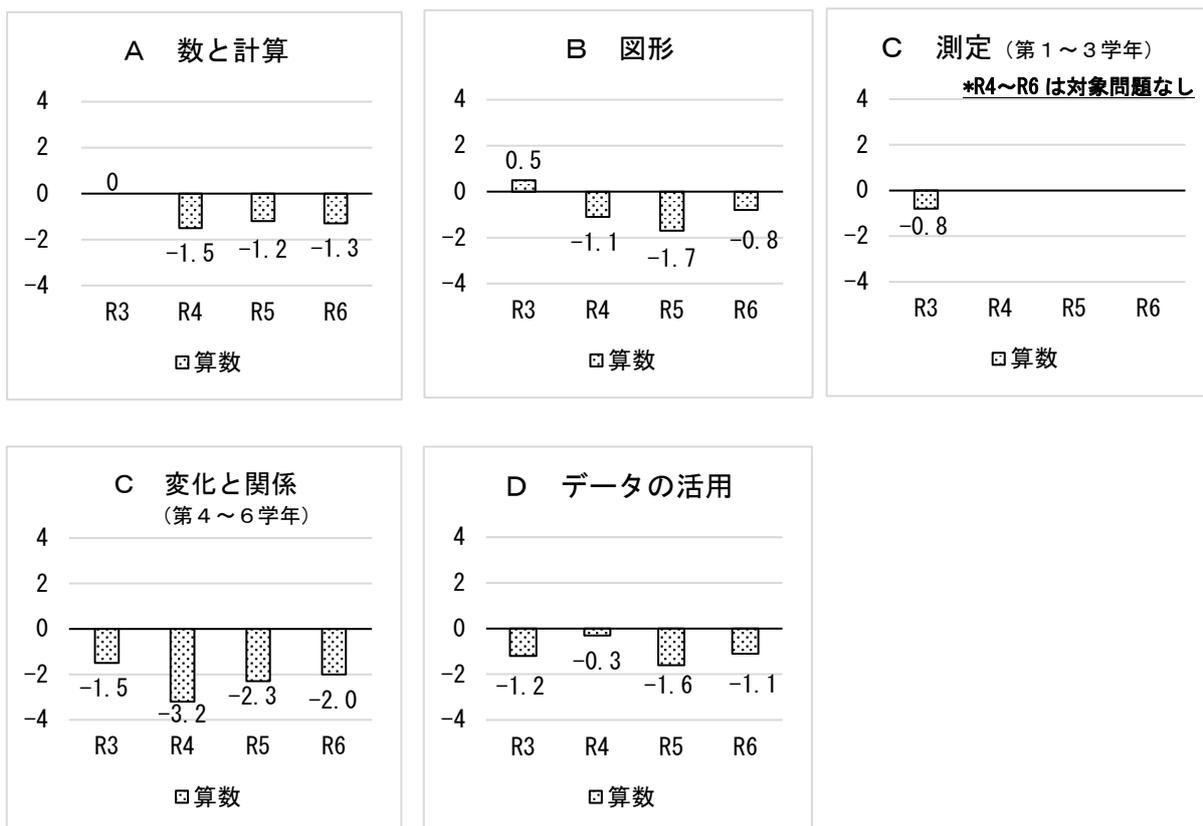
キ 小学校算数の経年変化と分析

(ア) 領域、評価の観点、問題形式ごとの経年変化の状況

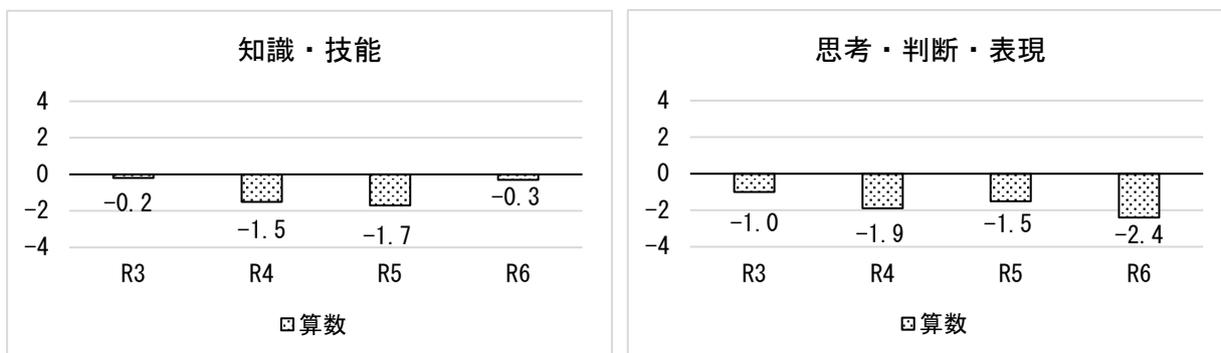
令和3年度^{※3}から令和6年度までの学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式ごとの正答率について、全国の平均正答率と比較した。

※3・・・令和3年度から、学習指導要領の領域、評価の観点等が変更しているため、4年分の結果で分析。

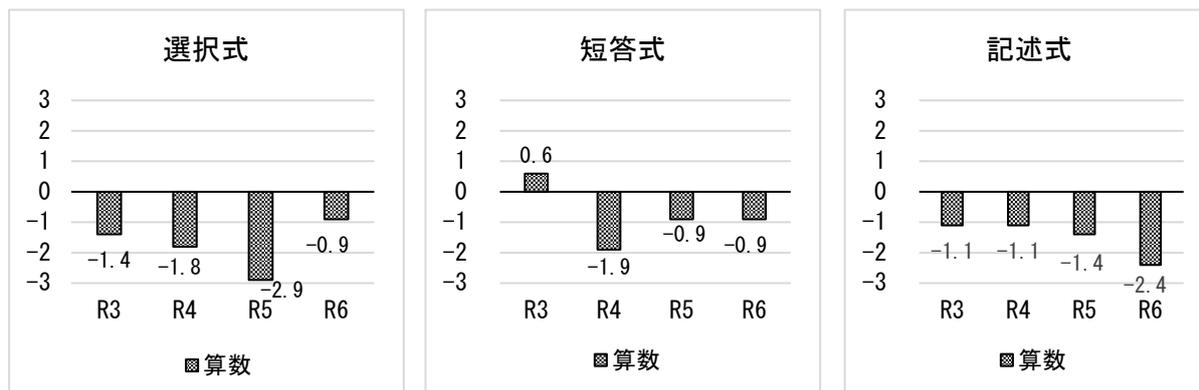
〔グラフⅡ-22〕 学習指導要領の領域ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差（％）



〔グラフⅡ-23〕 評価の観点ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差（％）



〔グラフⅡ-24〕 問題形式ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差（％）



(イ) 分析 ◇：成果 ◆：課題

◆全ての領域において、平均正答率は全国を下回っている。(グラフⅡ-22)

◆評価の観点の知識・技能、思考・判断・表現の平均正答率は、全国を下回っている。

(グラフⅡ-23)

◆問題形式ごとの平均正答率は、全て全国を下回っている。特に記述式について、全国との差が令和4年度以降、年々増加している。(グラフⅡ-24)

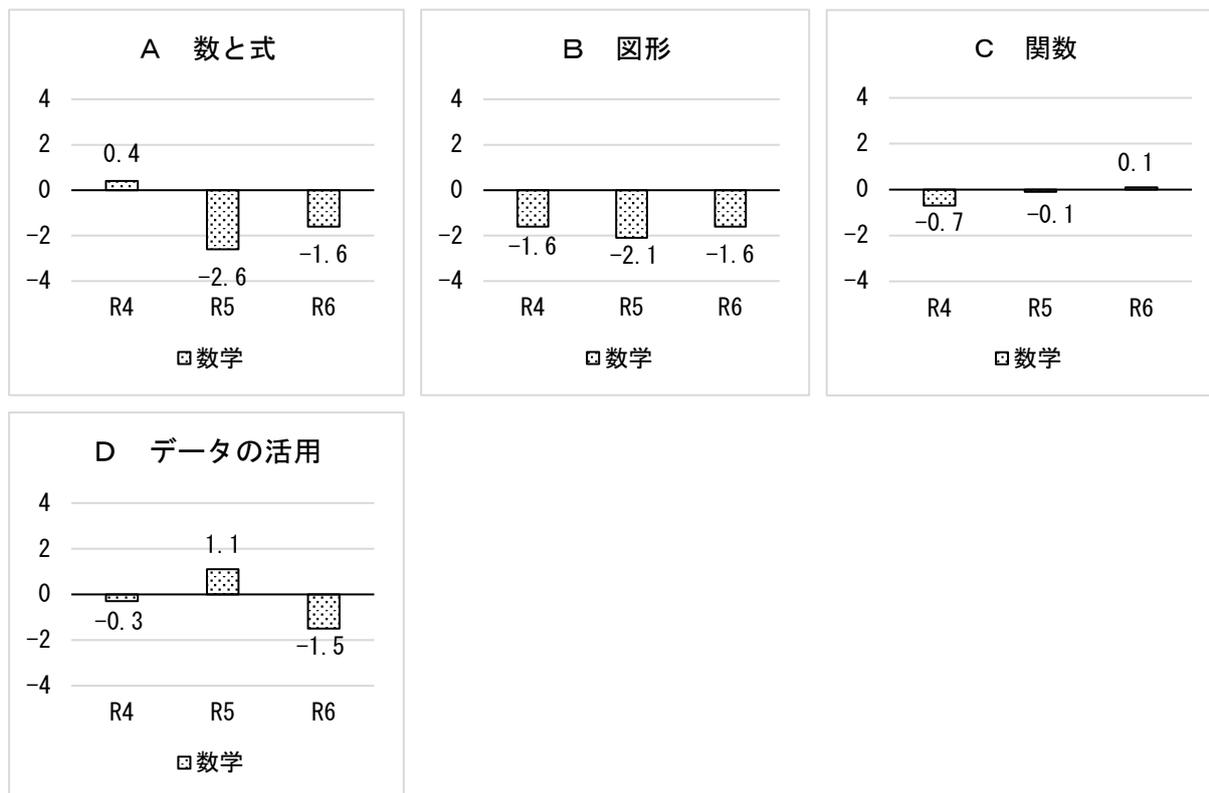
ク 中学校数学の経年変化と分析

(ア) 領域、評価の観点、問題形式ごとの経年変化の状況

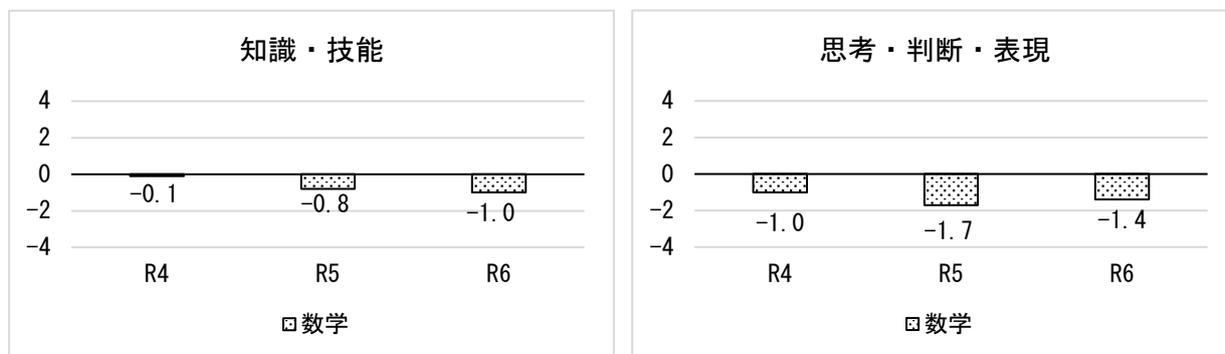
算数と同様に、数学についても令和4年度*4から令和6年度までの学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式ごとの正答率について、全国の平均正答率と比較した。

※4・・・令和4年度から、学習指導要領の領域、評価の観点等が変更しているため、3年分の結果で分析。

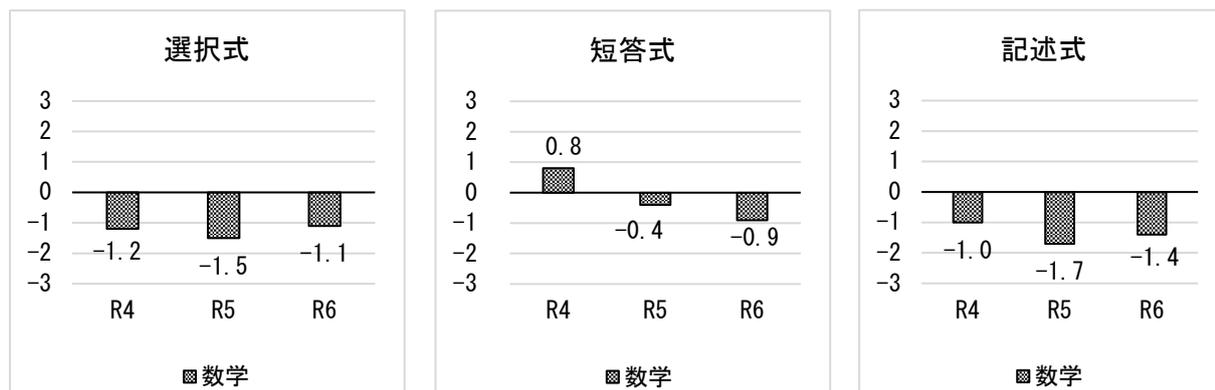
〔グラフⅡ-25〕 領域ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差（％）



〔グラフⅡ-26〕 評価の観点ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差（％）



[グラフⅡ-27] 問題形式ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差(%)



(イ) 分析 ◇: 成果 ◆: 課題

◇関数の領域の平均正答率は、これまで全国を下回っていたが、令和6年度は全国を上回っている。(グラフⅡ-25)

◆数と式、図形、データの活用の領域の平均正答率は、全国を下回っている。(グラフⅡ-25)

◆小学校算数同様、評価の観点の知識・技能、思考・判断・表現の平均正答率は、全国を下回っている。(グラフⅡ-26)

◆選択式、短答式、記述式の平均正答率は、全国を下回っている。(グラフⅡ-27)

2 質問調査の結果と分析

(1) 令和6年度 質問調査の結果と分析

児童生徒を対象とする質問調査と、学校（教師）を対象とする質問調査の項目を分類^(※1)し、それぞれを〔児童生徒〕、〔学校運営〕に整理し、領域ごとに全国を100としてスコア化^(※2)した。

〔児童生徒〕、〔学校運営〕の領域は次のとおりである。

〔児童生徒〕 児童：5領域 生徒：5領域

- 学習に対する興味・関心
 - ・国語への関心等
 - ・算数(数学)への関心等
- 規範意識・自己有用感
 - ・規範意識
 - ・自己有用感
- 生活習慣・学習習慣
 - ・生活習慣・学習習慣

〔学校運営〕 小学校：8領域 中学校：8領域

- 教科指導
 - ・国語科の指導方法
 - ・算数(数学)科の指導方法
- 授業改善・生徒指導
 - ・授業改善
 - ・ICTを活用した学習状況^(※3)
 - ・生徒指導
- 学校経営
 - ・学校運営
 - ・教職員の資質能力の向上
 - ・家庭や地域との連携等

※1：各領域に対応する質問項目は、文部科学省が結果チャートを作成する際に用いた分類に沿う。

※2：該当する領域に含まれる個別の質問項目の回答結果の割合を基に基礎値を算出し、領域ごとの平均値を算出する。全国の平均値に対する長野県の平均値を各領域のスコアとして、事務局でスコアを算出した。

※3：今年度新設された領域。

ア 小学校調査

(ア) 結果

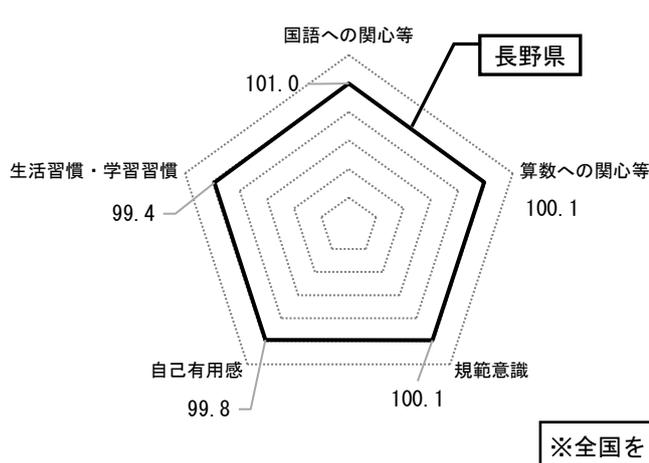
〔表Ⅱ-7〕 〔児童〕のスコア（小学校）

領域名		スコア
学習に対する 興味・関心	国語への関心等	101.0
	算数への関心等	100.1
規範意識・ 自己有用感	規範意識	100.1
	自己有用感	99.8
生活習慣・ 学習習慣	生活習慣・学習習慣	99.4

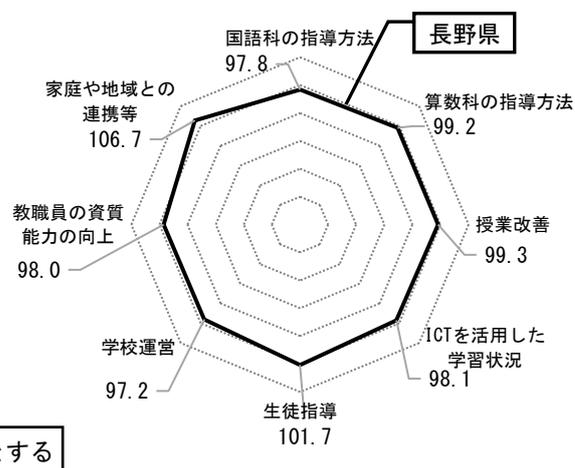
〔表Ⅱ-8〕 〔学校運営〕のスコア（小学校）

領域名		スコア
教科指導	国語科の指導方法	97.8
	算数科の指導方法	99.2
授業改善・ 生徒指導	授業改善	99.3
	ICTを活用した学習状況	98.1
	生徒指導	101.7
学校経営	学校運営	97.2
	教職員の資質能力の向上	98.0
	家庭や地域との連携等	106.7

〔グラフⅡ-28〕 〔児童〕のスコア（小学校）



〔グラフⅡ-29〕 〔学校運営〕のスコア（小学校）



(イ) 分析 ◇：成果 ◆：課題

◇〔児童〕では、国語への関心等、算数への関心等、規範意識が全国を上回っている。

(表Ⅱ-7、グラフⅡ-28)

◇〔学校運営〕では、家庭や地域との連携等が6.7ポイント全国平均を上回っている。

(表Ⅱ-8、グラフⅡ-29)

◆〔学校運営〕では、令和5年度同様、国語科及び算数科の指導方法、授業改善、学校運営、教職員の資質能力の向上が全国平均を下回っている。

(表Ⅱ-8、グラフⅡ-33)

イ 中学校調査

(ア) 結果

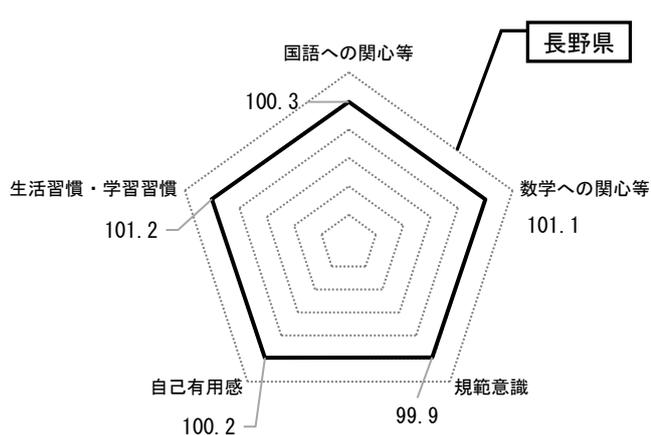
〔表Ⅱ-9〕 [生徒] のスコア (中学校)

領域名		スコア
学習に対する 興味・関心	国語への関心等	100.3
	数学への関心等	101.1
規範意識・ 自己有用感	規範意識	99.9
	自己有用感	100.2
生活習慣・ 学習習慣	生活習慣・学習習慣	101.2

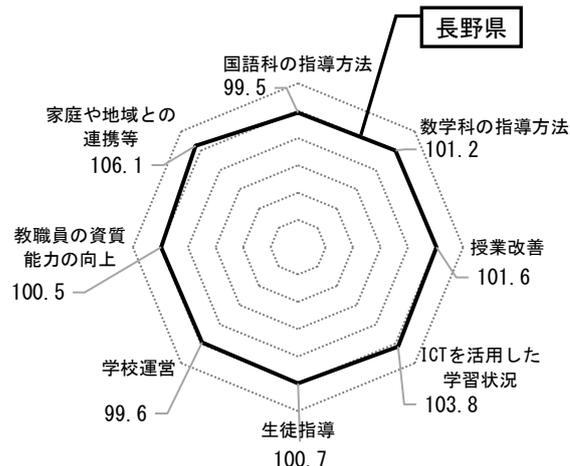
〔表Ⅱ-10〕 [学校運営] のスコア (中学校)

領域名		スコア
教科指導	国語科の指導方法	99.5
	数学科の指導方法	101.2
授業改善・ 生徒指導	授業改善	100.6
	ICTを活用した学習状況	103.8
	生徒指導	100.7
学校経営	学校運営	99.6
	教職員の資質能力の向上	100.5
	家庭や地域との連携等	106.1

〔グラフⅡ-30〕 [生徒] のスコア (中学校)



〔グラフⅡ-31〕 [学校運営] のスコア (中学校)



※全国を100とする

(イ) 分析 ◇ : 成果 ◆ : 課題

◇ [生徒] では、国語への関心等、数学への関心等、自己有用感、生活習慣・学習習慣で全国を上回っている。(表Ⅱ-9、グラフⅡ-30)

◆ [生徒] では、規範意識が全国を下回っている。(表Ⅱ-9、グラフⅡ-30)

◇ [学校運営] では、特に家庭や地域との連携等が高く、全国を6.1ポイント上回っている。(表Ⅱ-10、グラフⅡ-35)

◆ [学校運営] では、国語科の指導方法、学校運営が全国を下回っている。

(表Ⅱ-10、グラフⅡ-35)

(2) 過去3回(令和4年度～令和6年度)の調査結果の経年変化と分析

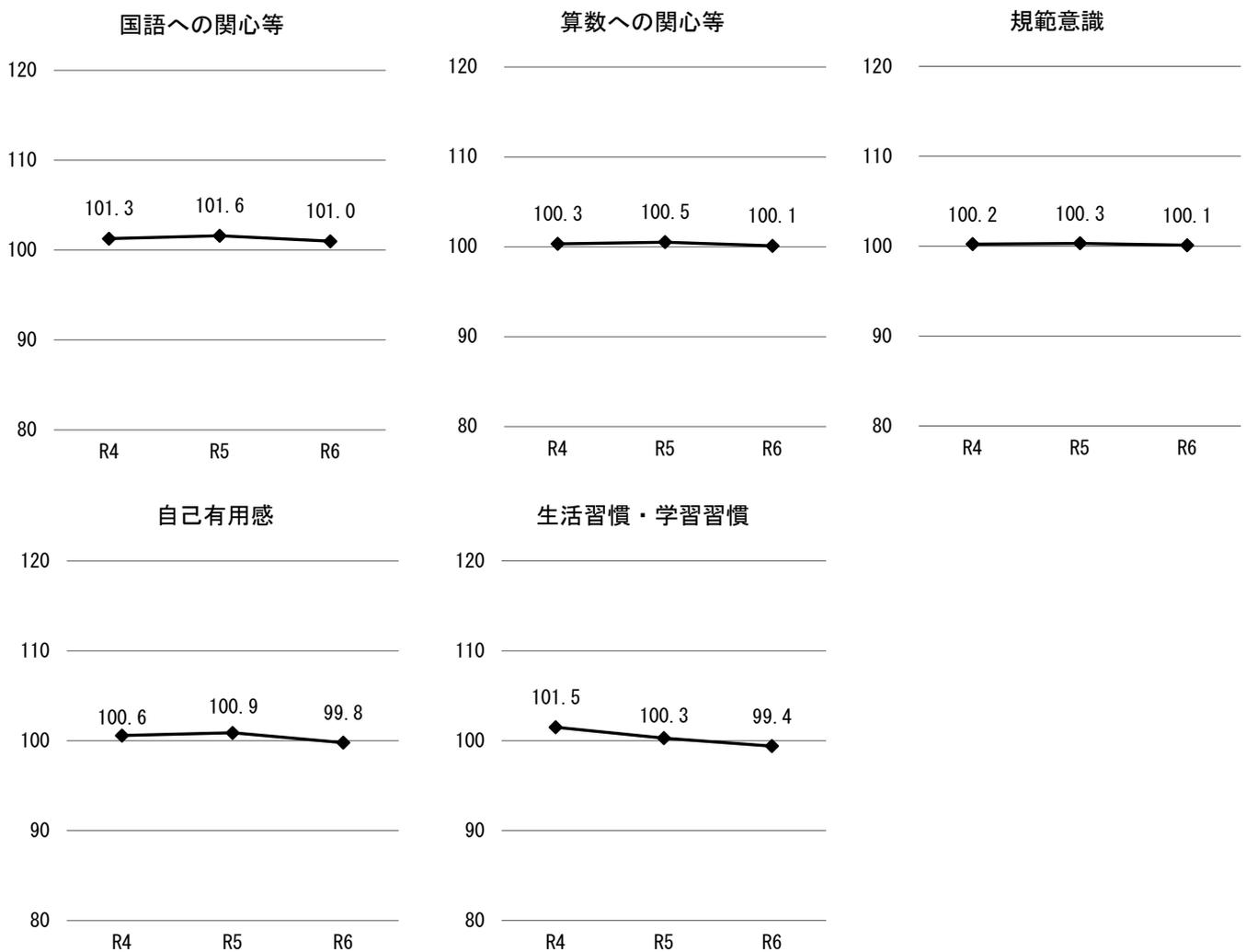
ア 小学校調査

(ア) 経年変化

〔表Ⅱ-11〕 〔児童〕のスコアの経年変化

領域名		R4	R5	R6
学習に対する 興味・関心	国語への関心等	101.3	101.6	101.0
	算数への関心等	100.3	100.5	100.1
規範意識・ 自己有用感	規範意識	100.2	100.3	100.1
	自己有用感	100.6	100.9	99.8
生活習慣・学習習慣	生活習慣・学習習慣	101.5	100.3	99.4

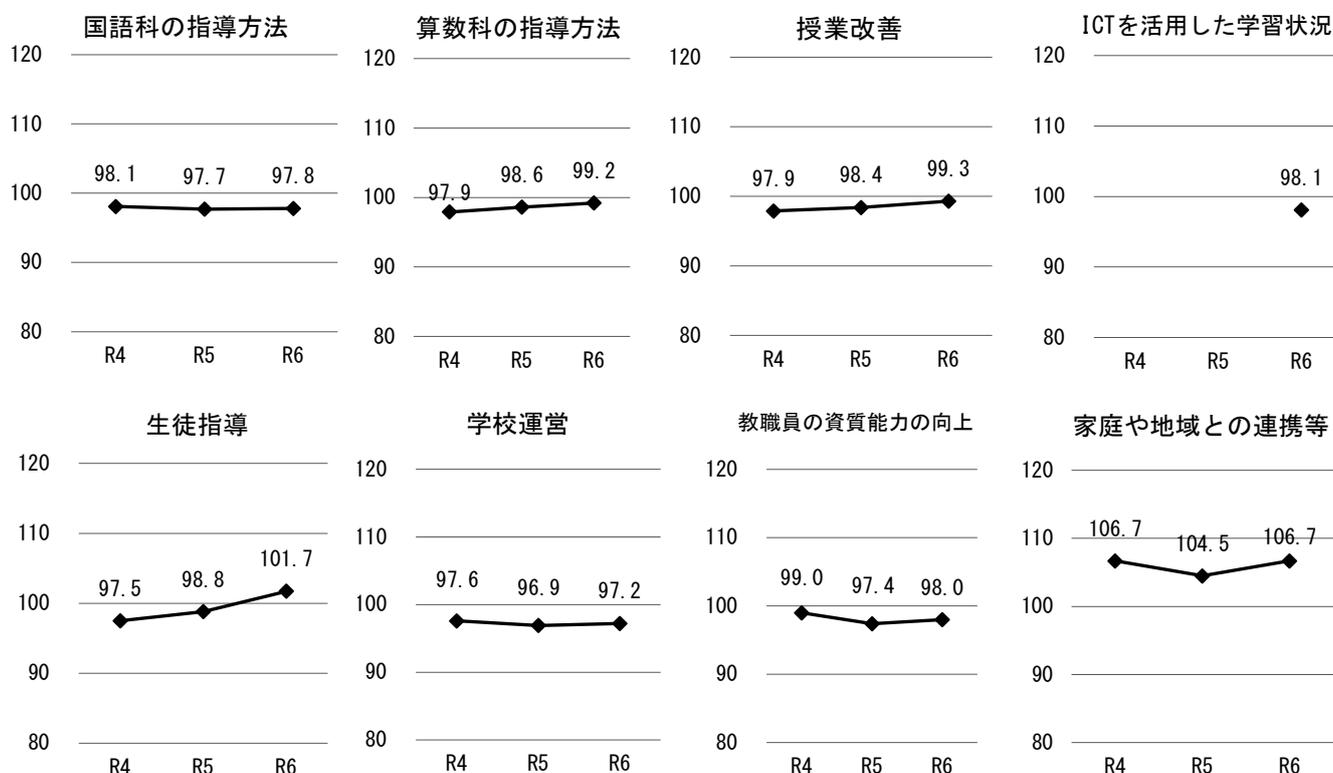
〔グラフⅡ-32〕 〔児童〕のスコアの経年変化



〔表Ⅱ-12〕 〔学校運営〕 のスコアの経年変化

領域名		R4	R5	R6
教科指導	国語科の指導方法	98.1	97.7	97.8
	算数科の指導方法	97.9	98.6	99.2
授業改善・生徒指導	授業改善	97.9	98.4	99.3
	ICTを活用した学習状況			98.1
	生徒指導	97.5	98.8	101.7
学校経営	学校運営	97.6	96.9	97.2
	教職員の資質能力の向上	99.0	97.4	98.0
	家庭や地域との連携等	106.7	104.5	106.7

〔グラフⅡ-33〕 〔学校運営〕 のスコアの経年変化



(イ) 分析 ◇ : 成果 ◆ : 課題

◆ [児童] では、全ての項目について令和5年度から減少している。

(表Ⅱ-11、グラフⅡ-32)

◇ [学校運営] では、算数科の指導方法、授業改善が全国より下回っているものの、令和3年度から少しずつ上昇している。(表Ⅱ-12、グラフⅡ-33)

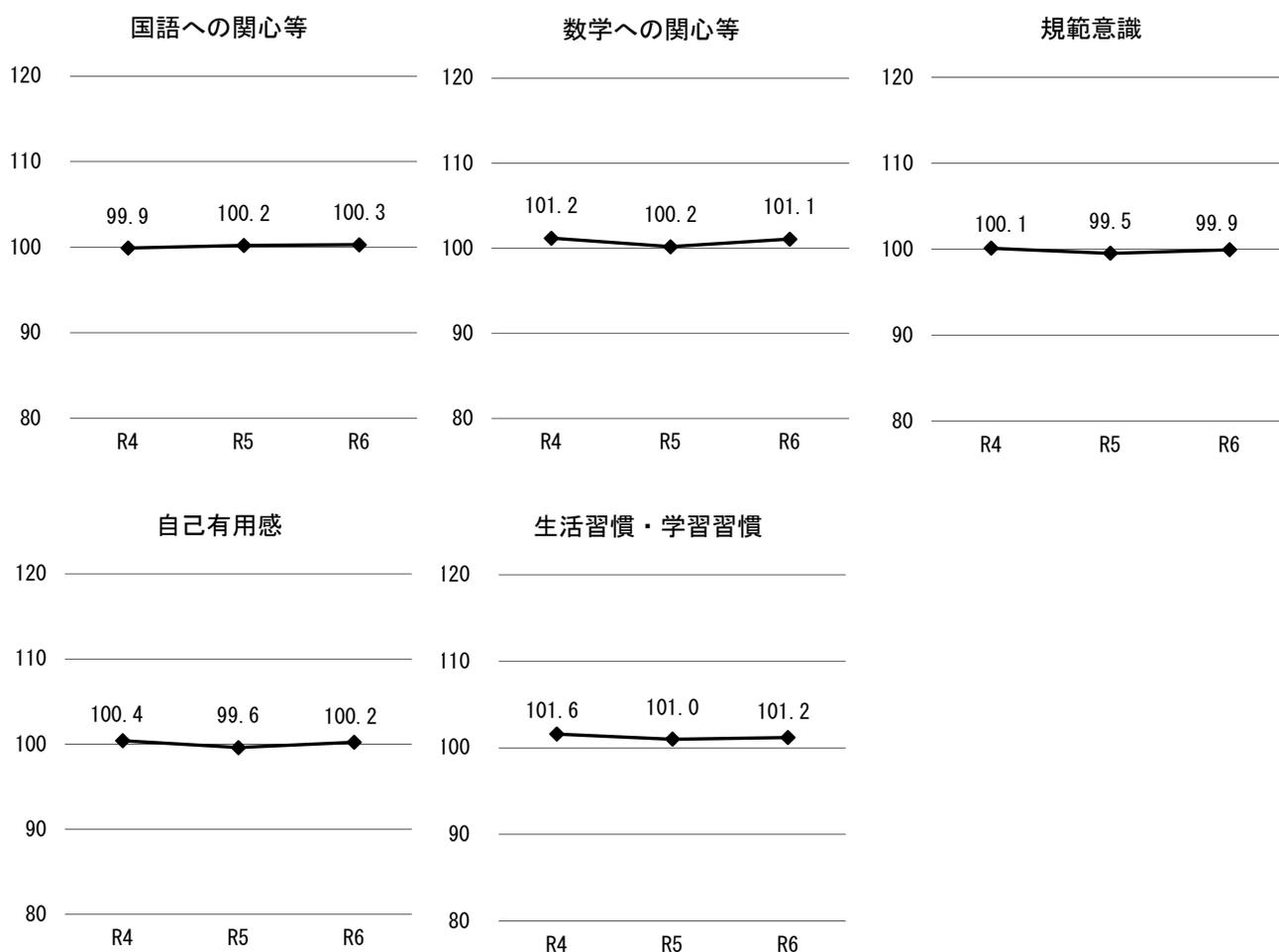
◆ [学校運営] では、学校運営、教職員の資質能力の向上が令和4年度から引き続き、全国を下回っている。(表Ⅱ-12、グラフⅡ-33)

イ 中学校調査
 (ア) 経年変化

〔表Ⅱ-13〕 [生徒] のスコアの経年変化

領域名		R4	R5	R6
学習に対する 興味・関心	国語への関心等	99.9	100.2	100.3
	数学への関心等	101.2	100.2	101.1
規範意識・ 自己有用感	規範意識	100.1	99.5	99.9
	自己有用感	100.4	99.6	100.2
生活習慣・学習習慣	生活習慣・学習習慣	101.6	101.0	101.2

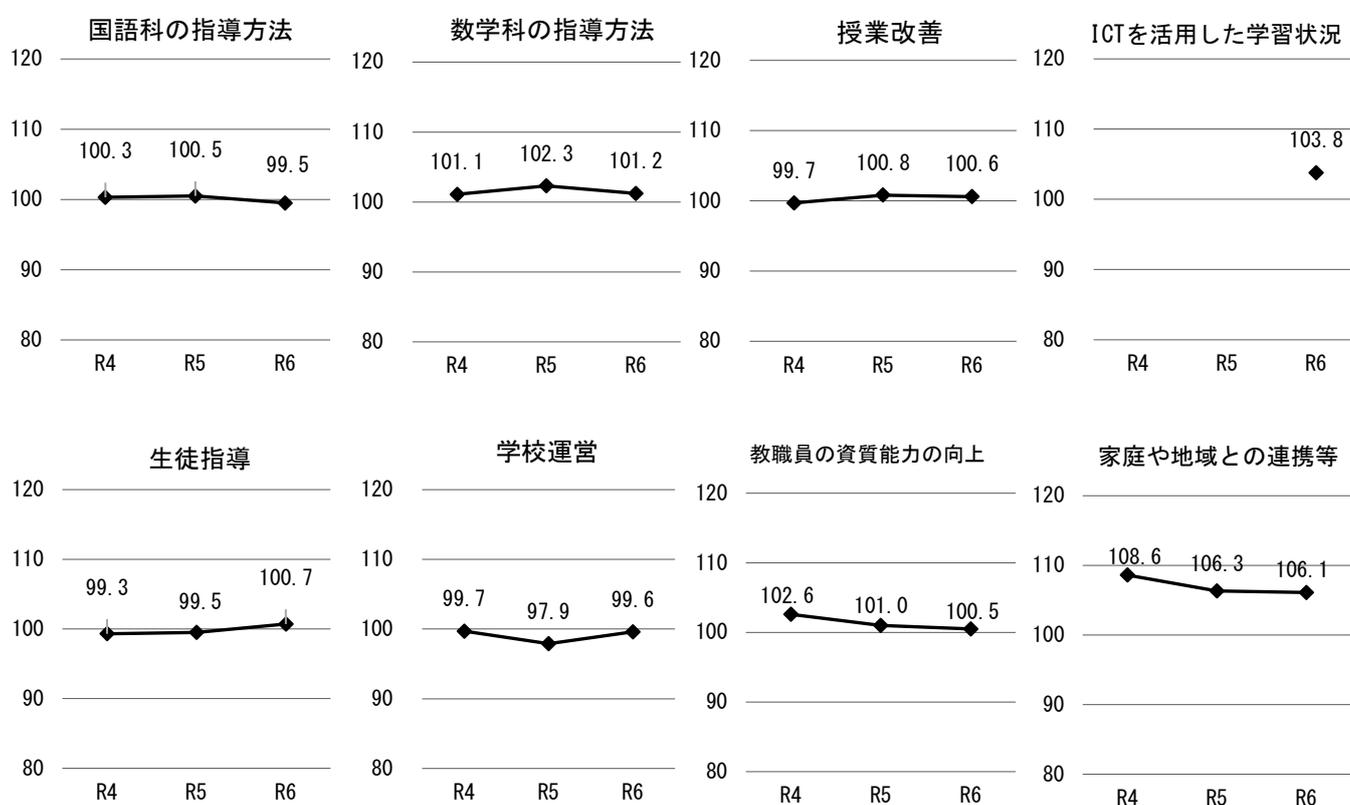
〔グラフⅡ-34〕 [生徒] のスコアの経年変化



〔表Ⅱ-14〕 〔学校運営〕のスコアの経年変化

領域名		R4	R5	R6
教科指導	国語科の指導方法	100.3	100.5	99.5
	数学科の指導方法	101.1	102.3	101.2
授業改善・生徒指導	授業改善	99.7	100.8	100.6
	ICTを活用した学習状況			103.8
	生徒指導	99.3	99.5	100.7
学校経営	学校運営	99.7	97.9	99.6
	教職員の資質能力の向上	102.6	101.0	100.5
	家庭や地域との連携等	108.6	106.3	106.1

〔グラフⅡ-35〕 〔学校運営〕のスコアの経年変化



(イ) 分析 ◇ : 成果 ◆ : 課題

◇ [生徒] のスコアは、国語への関心等、数学への関心等、自己有用感、生活習慣・学習習慣で全国を上回っている。特に、国語への関心等は令和4年度以降上昇傾向にある。

(表Ⅱ-13、グラフⅡ-34)

◇ [学校運営] の家庭や地域との連携等は、令和4年度から継続して全国を6ポイント以上上回っている。(表Ⅱ-14、グラフⅡ-35)

◆ [学校運営] では、国語科の指導方法、学校運営が令和4年度から引き続き、全国を下回っている。(表Ⅱ-14、グラフⅡ-35)

Ⅲ 全国の分析との比較

今年度の全国学力・学習状況調査の結果は、国立教育政策研究所のウェブページに掲載されている。このうち、「令和6年度全国学力・学習状況調査の結果」で取り上げられている項目と関連させて、長野県の結果をまとめた。

〔調査概要〕

調査実施日 令和6年4月18日（木）

調査事項 ○児童生徒に対する調査

- ・教科に関する調査（国語、算数・数学）
- ・質問調査（児童生徒質問調査）
- ※児童生徒質問調査は、一部の学校でオンライン実施。

○学校に対する調査

- ・質問調査（学校質問調査）

調査対象及び集計対象児童生徒・学校数

	小学校		中学校	
	児童数	学校数	生徒数	学校数
	4月18日(木)に調査を実施した児童数	4月18日(木)に調査を実施した学校数	4月18日(木)に調査を実施した生徒数	4月18日(木)に調査を実施した学校数
長野県(公立)	15,205人	350校	14,719人	188校
全国(公立)	947,579人	18,529校	875,952人	9,347校

※調査を実施した児童生徒数は、回収した解答用紙が最も多かった教科の解答用紙の枚数で算出。

〔教科の調査結果〕

長野県（公立）の平均正答数・平均正答率 [上段]：平均正答数/設定問題数 [下段]：平均正答率

校種	年度 教科	令和6年度		年度 教科	令和5年度	
		長野県	全国		長野県	全国
小学校	国語	9.4/14問 67%	9.5/14問 67.7%	国語	9.3/14問 66%	9.4/14問 67.2%
	算数	10.0/16問 62%	10.1/16問 63.4%	算数	9.7/16問 61%	10.0/16問 62.5%
中学校	国語	8.7/15問 58%	8.7/15問 58.1%	国語	10.3/15問 69%	10.5/15問 69.8%
	数学	8.2/16問 51%	8.4/16問 52.5%	数学	7.5/15問 50%	7.6/15問 51.0%

※文部科学省において、平均正答率の微少な差異は実質的な学力面の違いを示すものではないため、都道府県の結果は小数点以下を四捨五入した整数値としている。

(注) □…全国の平均正答率を上回る主な設問

■…全国の平均正答率を下回る主な設問

1 教科に関する調査結果

小学校国語

□日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気付くことができるかどうかをみる

【原さんの読書の記録】の空欄に入る内容として適切なものを選択する

【大問3 設問四】76.1%(全国比 +1.5)

□文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかどうかをみる

【物語】の一文の中の「かがやいています」の主語として適切なものを選択する

【大問3 設問一】63.2%(全国比 +0.9)

□登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができるかどうかをみる

「オニグモじいさん」が「ハエの女の子」にどのように話すか迷っていると考えられるところとして、適切なものを選択する

【大問3 設問二(1)】67.7%(全国比 +0.8)

■資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる

オンラインで交流する場面における和田さんの話し方の工夫として適切なものを選択する

【大問1 設問二(2)】48.8%(全国比 -4.1)

■目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる

オンラインで交流する場面において、【和田さんのメモ】がどのように役に立ったのかを説明したものとして、適切なものを選択する

【大問1 設問三】60.3%(全国比 -3.5)

■話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができるかどうかをみる

オンラインで交流する場面において、和田さんが話し方を変えた理由として適切なものを選択する

【大問1 設問二(1)】73.8%(全国比 -2.1)

中学校国語

□文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる

漢字を書く(みちたりた)

【大問3 設問三】70.0%(全国比 +1.2)

□必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができるかどうかをみる

話合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する

【大問1 設問一】64.3%(全国比 +1.1)

□目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる

物語を書くために集めた材料を取捨選択した意図を説明したものとして適切なものを選択する

【大問3 設問一】82.5%(全国比 +1.1)

■資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝えるように話すことができるかどうかをみる

話合いの中で発言する際に指し示している資料の部分として適切な部分を○で囲む

【大問1 設問二】67.3%(全国比 -1.2)

■文章の全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉えることができるかどうかをみる

本文中に示されている二つの例の役割をまとめた文の空欄に入る言葉として適切なものを選択する

【大問2 設問三】63.3%(全国比 -1.2)

■文の成分の順序や照応について理解しているかどうかをみる

物語の下書きについて、文の中の語句の位置を直した意図を説明したものとして適切なものを選択する

【大問3 設問二】52.6%(全国比 -1.2)

小学校算数

□除数が小数である場合の除法の計算をすることができるかどうかをみる

〔 540 ÷ 0.6 を計算する

【大問4 設問(1)】72.3%(全国比 +2.2)

□簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理することができるかどうかをみる

〔 示されたデータから、1960年代のC市について、開花日が3月だった年と4月だった年がそれぞれ何回あったかを読み取り、表に入る数を書く

【大問5 設問(2)】73.8%(全国比 +0.5)

□道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる

〔 家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く

【大問4 設問(3)】31.4%(全国比 +0.4)

■計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる

〔 $350 \times 2 = 700$ であることを基に、 350×16 の積の求め方と答えを書く

【大問2 設問(1)】51.7%(全国比 -5.2)

■速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できるかどうかをみる

〔 3分間で180m歩くことを基に、1800mを歩くのにかかる時間を書く

【大問4 設問(2)】65.3%(全国比 -4.7)

■折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる

〔 折れ線グラフから、開花日の月について、3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代を読み取り、その年代について3月の回数と4月の回数の違いを書く

【大問5 設問(3)】41.1%(全国比 -2.9)

中学校数学

□グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈することができるかどうかをみる

〔 結衣さんがかいたグラフから、18Lの灯油を使い切るような「強」と「弱」のストーブの設定の組み合わせとその使用時間を書く

【大問8 設問(3)】79.3%(全国比 +2.4)

□二つのグラフにおけるy軸との交点について、事象に即して解釈することができるかどうかをみる

〔 ストーブの使用時間と灯油の残量の関係を表すグラフとy軸との交点Pのy座標の値が表すものを選ぶ

【大問8(1)】85.1%(全国比 +1.7)

□問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができるかどうかをみる

〔 正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかいた図において、○に3、-5を入れるとき、その和である□に入る整数を求める

【大問6(1)】90.9%(全国比 +0.7)

■連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる

〔 nを整数とするとき、連続する二つの偶数を、それぞれnを用いた式で表す

【大問1】29.2%(全国比 -5.6)

■複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することができるかどうかをみる

〔 車型ロボットについて、障害物からの距離の設定を変えて調べたデータの分布から、四分位範囲について読み取れることとして正しいものを選ぶ

【大問7(3)】44.6%(全国比 -3.9)

■筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる

〔 点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、 $AQ = PB$ であることを、三角形の合同を基にして証明する

【大問9(1)】22.1%(全国比 -3.7)

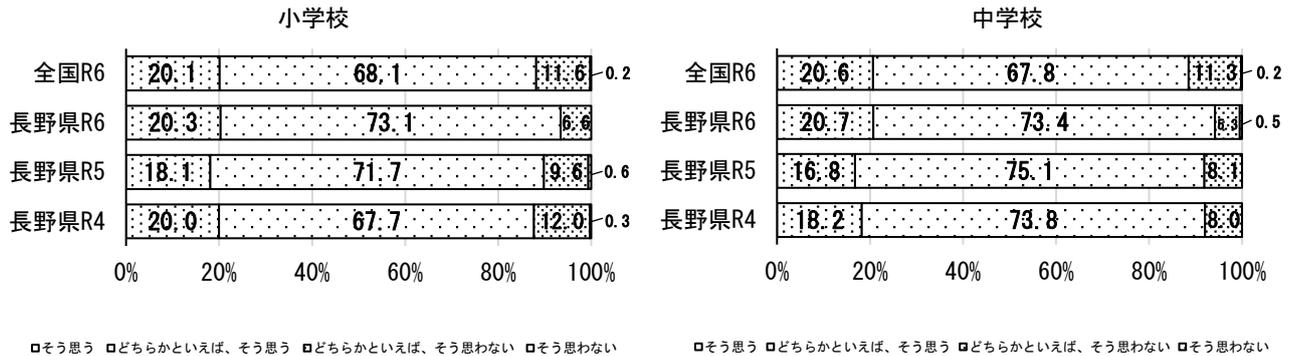
※本頁以降のグラフについて、「その他」や「無回答」の割合は極小値のため、見やすさの観点から表示していない。
そのため、各グラフの合計値が100にならない場合もある。

2 学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の取組状況

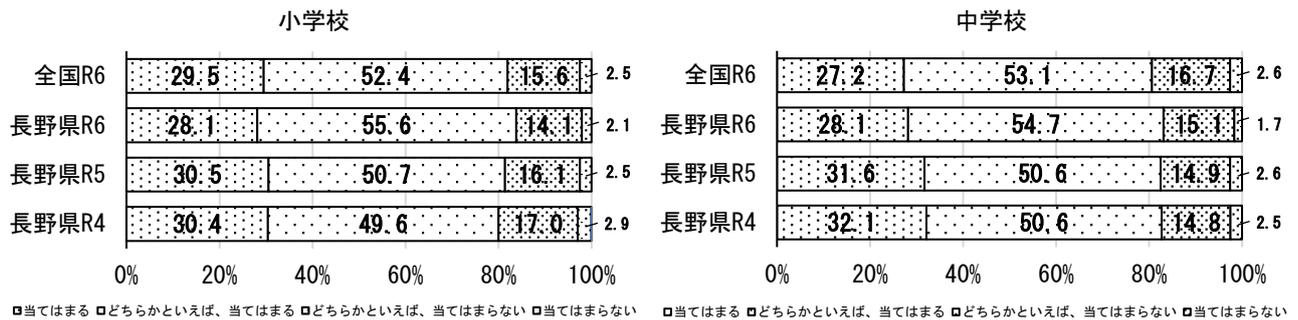
(1) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善①

- 「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができているか」について肯定的に回答した割合は、全国より小学校、中学校ともに上回っている。また、この質問に肯定的に回答した児童生徒の割合は、令和5年度よりも増加して、80%を超えている。
- この質問に肯定的に回答した児童生徒の方が、各教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

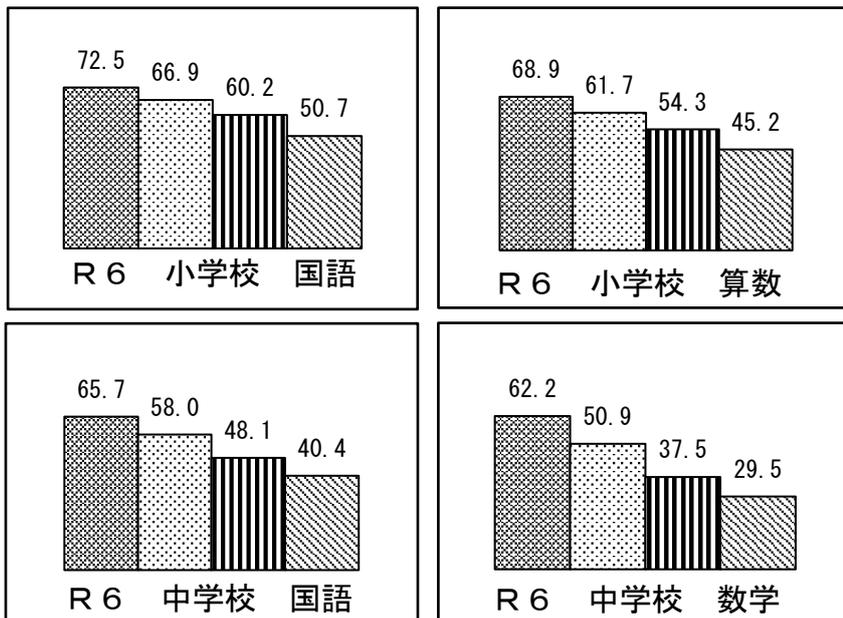
【学校質問】 調査対象学年の児童（生徒）は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか



【児童生徒質問】 5年生まで（1、2年生のとき）に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



児童生徒質問の選択肢毎の平均正答率（%）

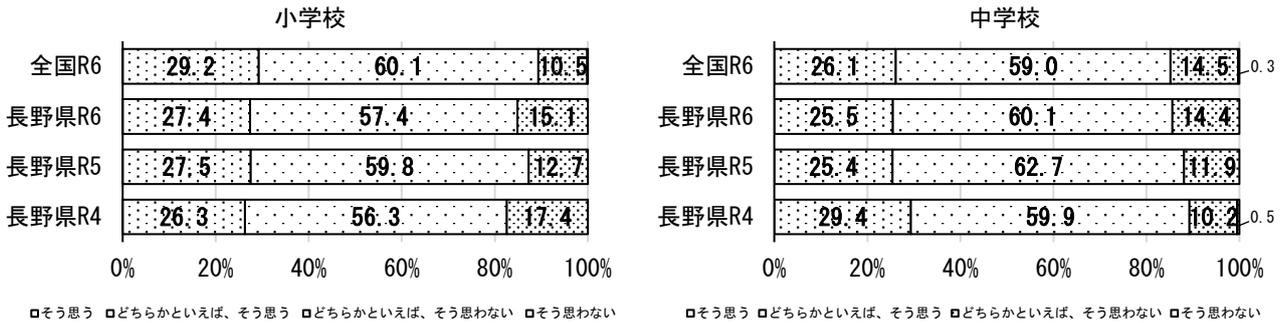


□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない

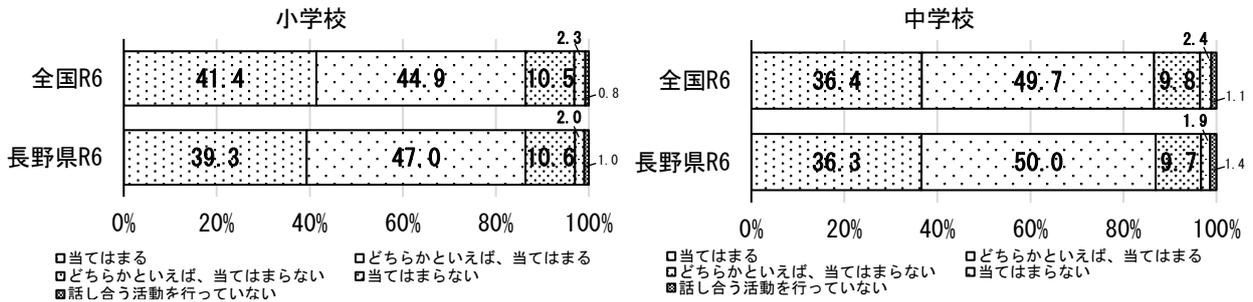
(1) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善②

- 「授業において、児童（生徒）自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたか」について肯定的に回答した割合は、令和5年度より小学校、中学校ともに減少している。
- 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」について肯定的に回答した割合は、小学校、中学校ともに、全国と同程度となっている。この質問に肯定的に回答した児童生徒の方が、各教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

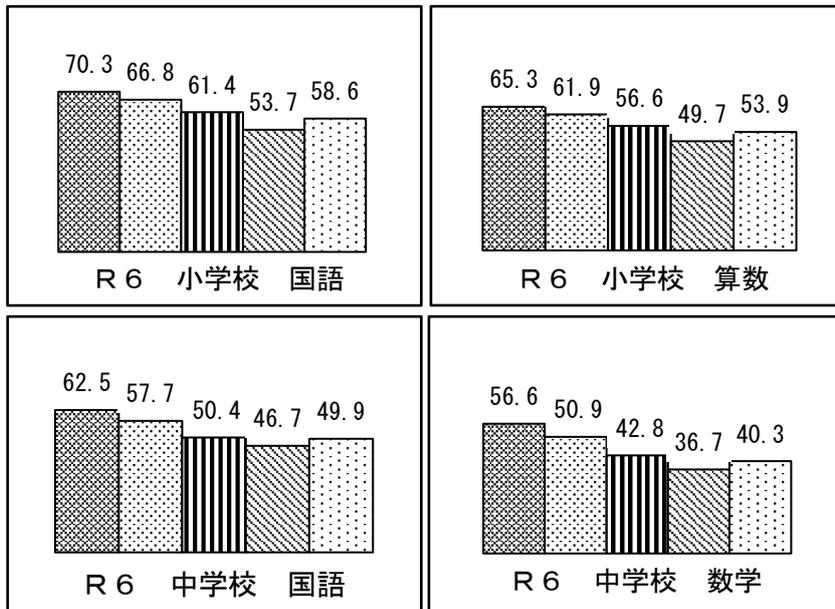
【学校質問】 調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、授業において、児童（生徒）自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか



【児童生徒質問】 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか（新規）



児童生徒質問の選択肢毎の平均正答率 (%)

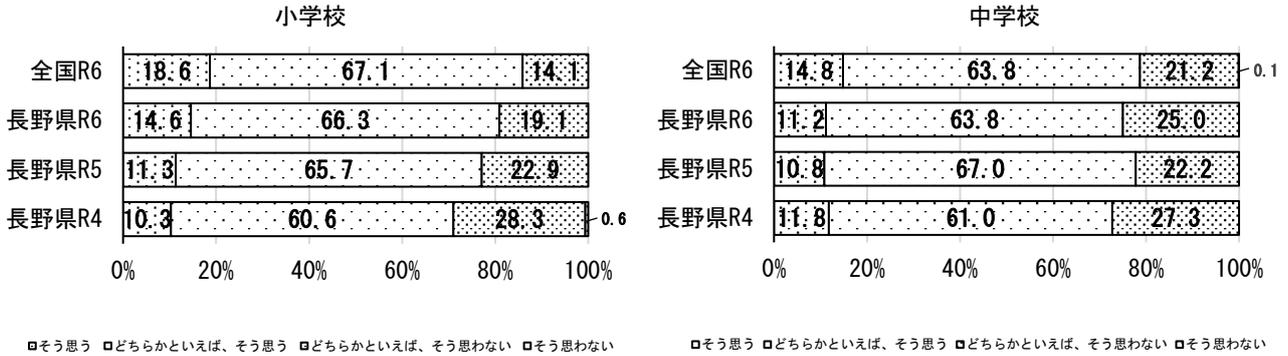


□1.当てはまる □2.どちらかといえば、当てはまる □3.どちらかといえば、当てはまらない □4.当てはまらない

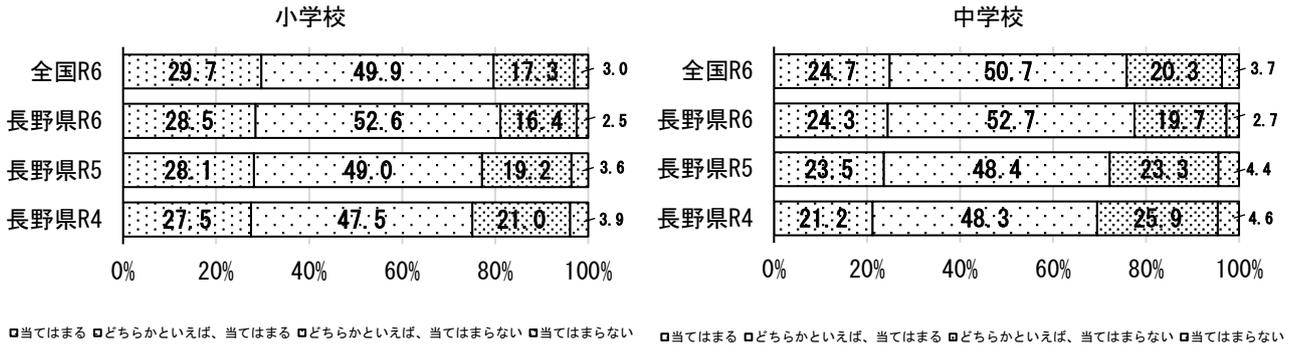
(1) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善③

- 「各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けたか」について肯定的に回答した割合は、小学校、中学校ともに、全国を下回った。
- 「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていたか」について肯定的に回答した割合は、令和5年度より小学校、中学校ともに増加し、全国を上回っている。この質問に肯定的に回答した児童生徒の方が、各教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

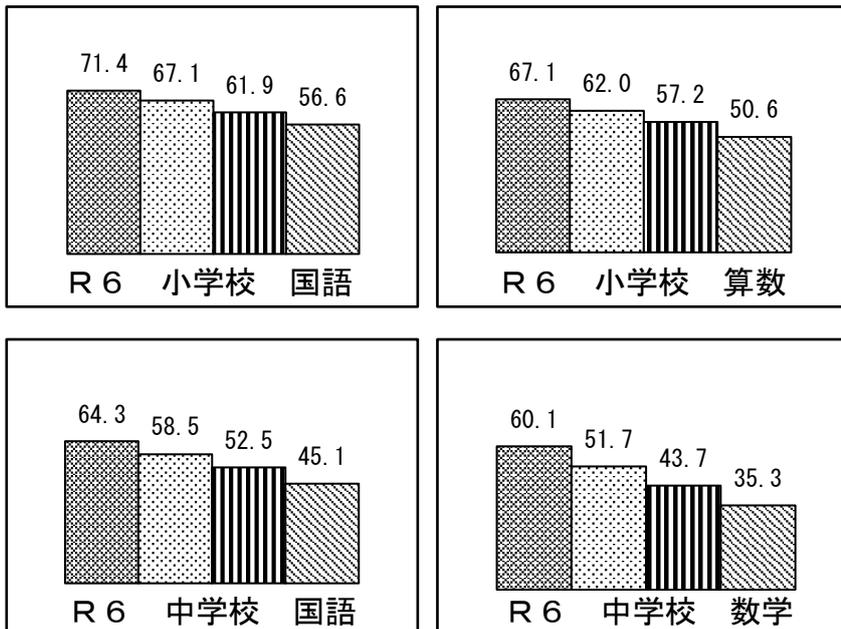
【学校質問】 調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか



【児童生徒質問】 5年生まで（1、2年生のとき）に受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか



児童生徒質問紙の選択肢毎の平均正答率（％）

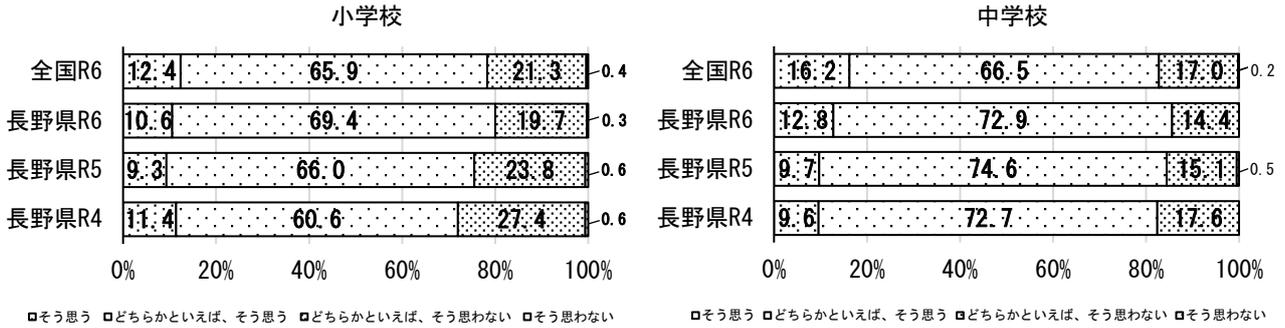


1. 当てはまる
 2. どちらかといえば、当てはまる
 3. どちらかといえば、当てはまらない
 4. 当てはまらない

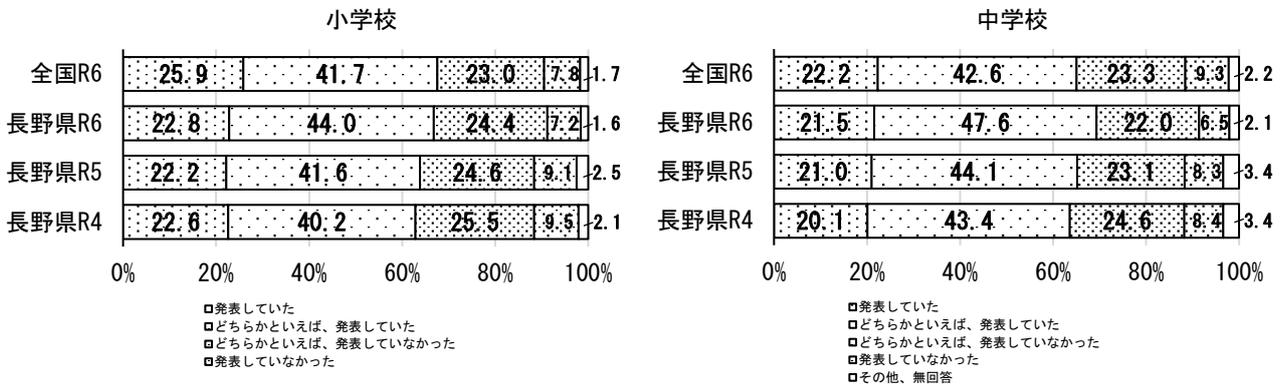
(1) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善④

- 「自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができているか」について肯定的に回答した学校の割合は、小学校、中学校ともに令和4年度以降増加している。
- 「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発表していたか」について肯定的に回答した割合は、児童では全国と同程度であり、生徒では全国を上回った。この質問に肯定的に回答した児童生徒の方が、各教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

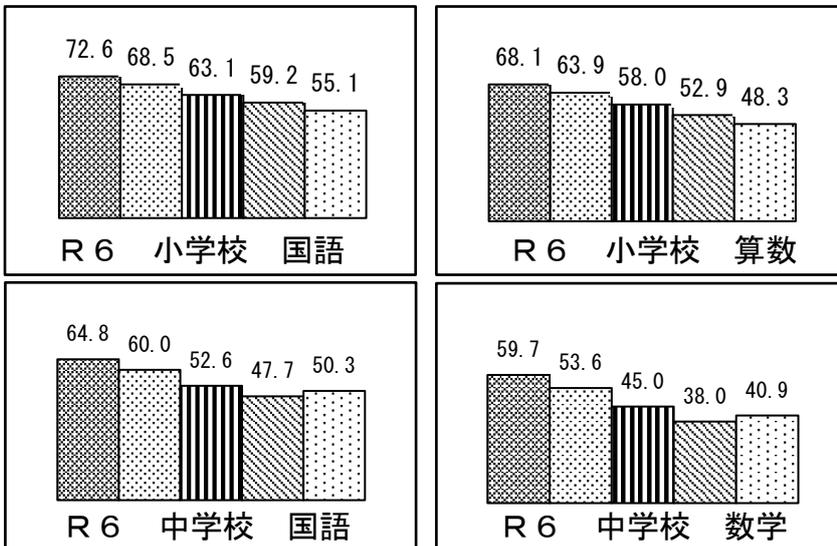
【学校質問】 調査対象学年の児童（生徒）は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか



【児童生徒質問】 5年生まで（1、2年生のとき）に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか



児童生徒質問の選択肢毎の平均正答率 (%)

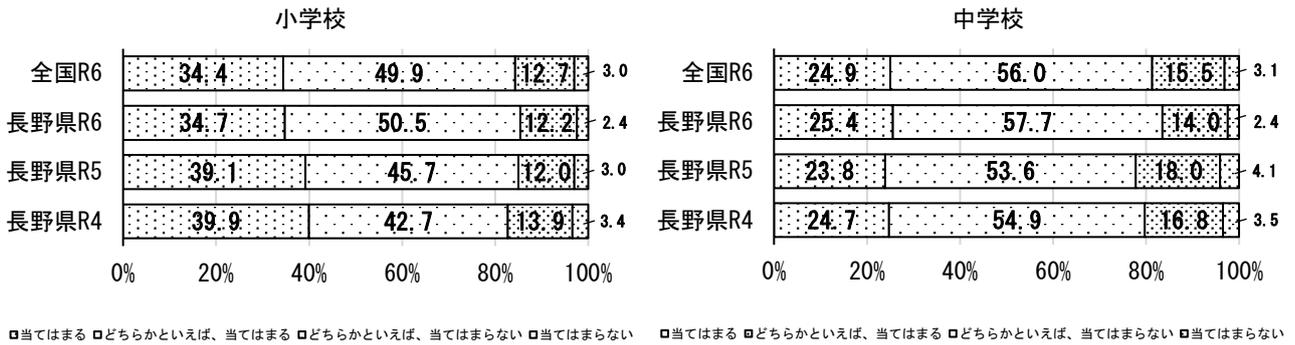


□1.発表していた □2.どちらかといえば、発表していた □3.どちらかといえば、発表してなかった □4.発表してなかった □5.考えを発表する機会はなかった

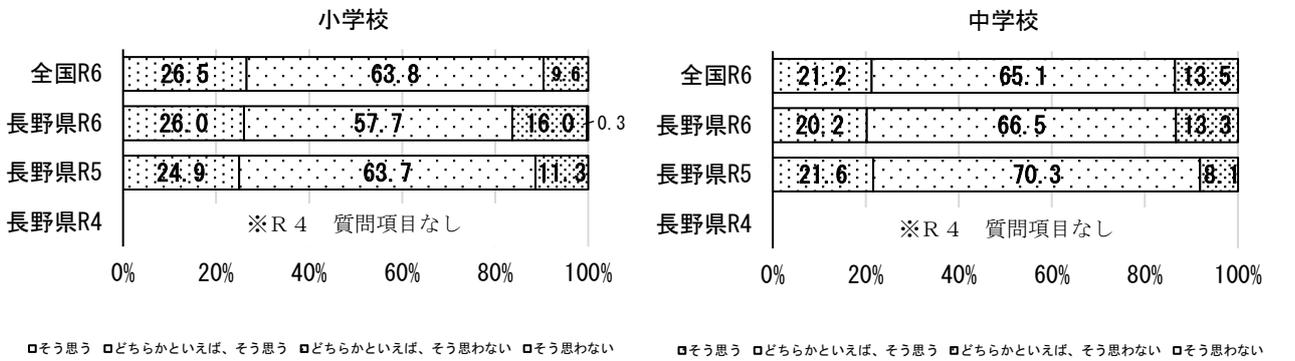
(2) 個別最適な学び・協働的な学びに関する状況

- 「授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたか」について肯定的に回答した割合は、児童生徒ともに令和5年度より増加し、生徒の割合は全国を上回っている。
- 「学習指導において、児童（生徒）一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したか」について肯定的に回答した割合は、小学校、中学校ともに令和5年度より減少している。
- 「児童（生徒）が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したか」について肯定的に回答した割合は、小学校は全国と同程度、中学校は全国を上回っている。

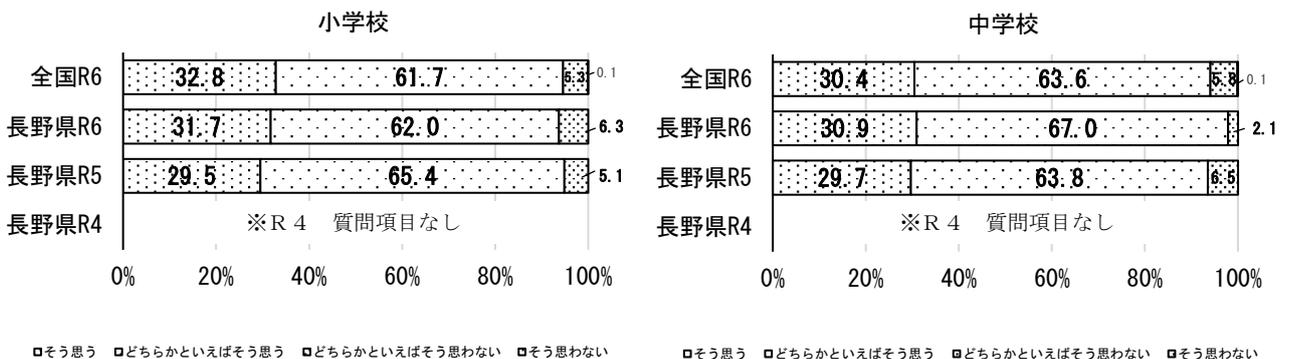
【児童生徒質問】 5年生まで（1、2年生のとき）に受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか



【学校質問】 調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、学習指導において、児童生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか



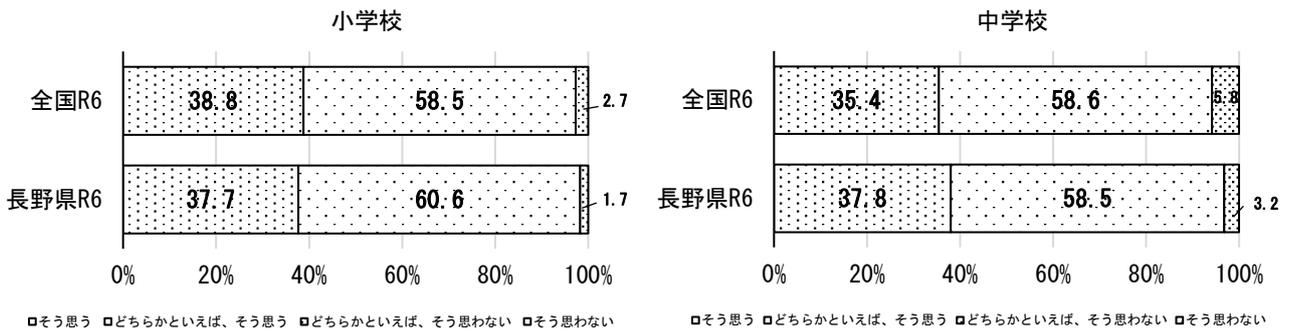
【学校質問】 調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、児童（生徒）が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか



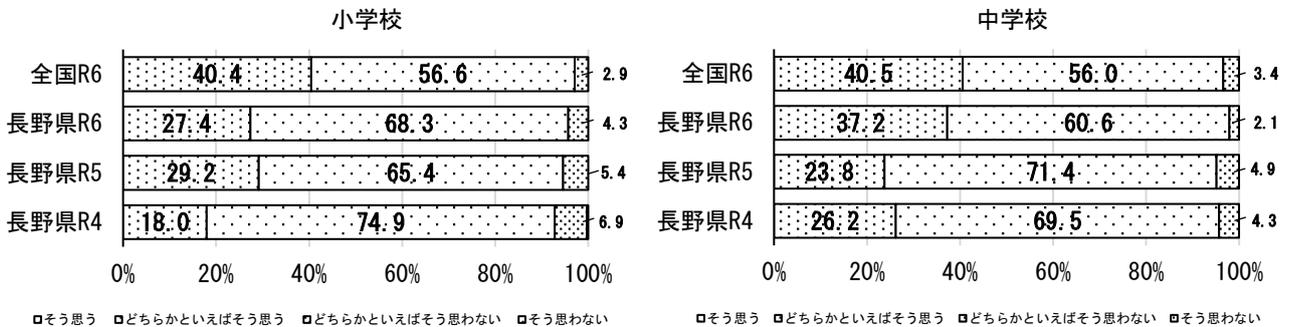
(3) カリキュラム・マネジメントに関する状況

- 「指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか」について肯定的に回答した割合は、小学校、中学校ともに全国同様高く、95%を超えている。
- 「児童（生徒）の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立しているか」について肯定的に回答した割合は、小学校、中学校ともに全国同様高く、95%程度である。

【学校質問】 指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか。（新規）



【学校質問】 児童（生徒）の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか



3 教科に関する質問紙調査の状況 国語

小学校 国語

(1) 児童の興味関心と小学校の指導状況

- 児童の興味関心について、肯定的に回答した児童の割合は、全ての項目において、全国と同程度、または全国を上回っているが、令和5年度より減少している。
- 小学校の指導状況について、肯定的に回答した小学校の割合は、全ての項目において全国を下回っている。
- 「国語の勉強が好き」と回答した児童の方が、平均正答率が高い傾向が見られる。

[児童の興味関心]

国語の勉強は好きですか

	当てるはまる	どちらかといえば、当てるはまる	どちらかといえば、当てるはまらない	当てるはまらない
全国R6	24.1	37.9	24.4	13.6
長野県R6	24.2	41.4	24.3	10.0
長野県R5	25.1	42.3	23.1	9.5
長野県R4	24.0	40.5	25.4	10.0

□当てるはまる □どちらかといえば、当てるはまる □どちらかといえば、当てるはまらない □当てるはまらない

国語の勉強は大切だと思いますか

	当てるはまる	どちらかといえば、当てるはまる	どちらかといえば、当てるはまらない	当てるはまらない
全国R6	67.5	27.0	3.6	1.9
長野県R6	67.9	27.3	3.3	1.4
長野県R5	70.3	24.9	3.4	1.3
長野県R4	68.7	25.4	4.2	1.6

□当てるはまる □どちらかといえば、当てるはまる □どちらかといえば、当てるはまらない □当てるはまらない

国語の授業の内容はよく分かりますか

	当てるはまる	どちらかといえば、当てるはまる	どちらかといえば、当てるはまらない	当てるはまらない
全国R6	39.2	47.1	10.8	2.8
長野県R6	38.5	49.1	10.2	2.1
長野県R5	40.2	47.2	10.4	2.1
長野県R4	39.1	46.9	11.1	2.8

□当てるはまる □どちらかといえば、当てるはまる □どちらかといえば、当てるはまらない □当てるはまらない

国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

	当てるはまる	どちらかといえば、当てるはまる	どちらかといえば、当てるはまらない	当てるはまらない
全国R6	61.8	31.4	4.9	1.8
長野県R6	63.2	31.2	4.1	1.5
長野県R5	67.1	27.5	4.1	1.3
長野県R4	66.5	26.7	5.0	1.7

□当てるはまる □どちらかといえば、当てるはまる □どちらかといえば、当てるはまらない □当てるはまらない

[小学校の指導状況]

情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるような指導を行いましたか（新規）

	当てるはまる	どちらかといえば、当てるはまる	どちらかといえば、当てるはまらない	当てるはまらない
全国R6	19.5	70.5	9.9	
長野県R6	12.9	69.4	17.7	

□当てるはまる □どちらかといえば、当てるはまる □どちらかといえば、当てるはまらない □当てるはまらない

目的や意図、場面の状況に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、話す内容を検討することができるような指導を行いましたか（新規）

	当てるはまる	どちらかといえば、当てるはまる	どちらかといえば、当てるはまらない	当てるはまらない
全国R6	22.2	70.4	7.3	
長野県R6	17.4	71.7	10.9	

□当てるはまる □どちらかといえば、当てるはまる □どちらかといえば、当てるはまらない □当てるはまらない

目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書くことができるような指導を行いましたか（新規）

	当てるはまる	どちらかといえば、当てるはまる	どちらかといえば、当てるはまらない	当てるはまらない
全国R6	29.8	65.1	5.0	
長野	26.3	67.7	6.0	

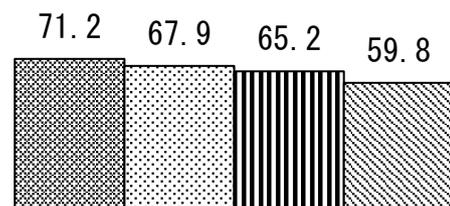
□当てるはまる □どちらかといえば、当てるはまる □どちらかといえば、当てるはまらない □当てるはまらない

登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考えて読むことができるような指導を行いましたか（新規）

	当てるはまる	どちらかといえば、当てるはまる	どちらかといえば、当てるはまらない	当てるはまらない
全国R6	35.5	61.4	3.0	
長野県R6	34.3	61.4	4.3	

□当てるはまる □どちらかといえば、当てるはまる □どちらかといえば、当てるはまらない □当てるはまらない

「国語の勉強は好きですか」の選択肢毎の平均正答率(%)



□1. 当てるはまる □2. どちらかといえば、当てるはまる □3. どちらかといえば、当てるはまらない □4. 当てるはまらない

(2) 生徒の興味関心と中学校の指導状況

- 生徒の興味関心について、肯定的に回答した生徒の割合は、全ての項目において、全国と同程度、または全国を上回っていて、令和5年度から増加している。
- 中学校の指導状況について、肯定的に回答した中学校の割合は、全ての項目について、全国同様90%を上回っている。
- 「国語の勉強が好き」と回答した生徒の方が、平均正答率が高い傾向が見られる。

〔生徒の興味関心〕

国語の勉強は好きですか

全国R6	24.4	39.9	25.2	10.3
長野県R6	22.0	41.9	27.2	8.7
長野県R5	21.7	40.3	27.5	10.3
長野県R4	21.0	39.7	29.7	9.6

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

国語の勉強は大切だと思いますか

全国R6	62.4	31.5	4.1	-1.6
長野県R6	62.3	31.7	4.1	-1.5
長野県R5	60.0	32.5	5.5	-1.8
長野県R4	61.8	31.7	4.9	-1.6

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

国語の授業の内容はよく分かりますか

全国R6	32.0	50.7	13.6	3.0
長野県R6	31.5	52.8	12.6	2.5
長野県R5	30.0	51.3	15.1	3.2
長野県R4	31.2	51.6	14.3	2.9

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

全国R6	52.3	38.3	6.7	2.1
長野県R6	53.4	38.1	6.2	1.9
長野県R5	52.7	36.5	7.8	2.5
長野県R4	55.0	35.1	7.5	2.3

□当てはまる □どちらかといえば当てはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

〔中学校の指導状況〕

話を聞いたり文章を読んだりするときに、具体的な情報と抽象的な情報との関係を捉えて理解することができるような指導を行いましたか（新規）

全国R6	28.7	65.2	6.1
長野県R6	22.9	71.3	5.8

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができるような指導を行いましたか（新規）

全国R6	29.7	61.8	8.2	-0.2
長野県R6	29.8	61.2	9.0	

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えて文章を書く指導を行いましたか（新規）

全国R6	39.4	56.4	4.1
長野県R6	36.7	59.0	4.3

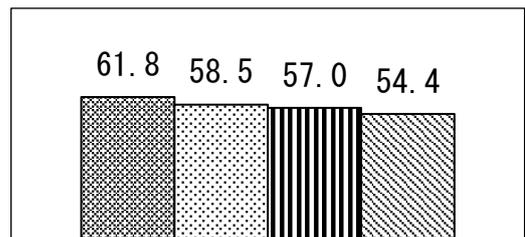
□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

説明的な文章を読み、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができるような指導を行いましたか（新規）

全国R6	35.3	60.1	4.4
長野県R6	35.6	60.1	4.3

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

「国語の勉強は好きですか」の選択肢毎の平均正答率(%)



□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない

4 教科に関する質問紙調査の状況 算数・数学

小学校 算数

(1) 児童の興味関心と小学校の指導状況

- 児童の興味関心について、肯定的に回答した児童の割合は、全ての項目において、全国と同程度、または全国を上回っていて、令和5年度から増加している。
- 「算数の勉強は好きですか」について肯定的に回答した児童の割合は、令和5年度から減少している。
- 小学校における指導状況について、「具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動を行いましたか」についての肯定的な回答が、全国を上回った。
- 「算数の勉強が好き」と回答した児童の方が、平均正答率が高い傾向が見られる。

[児童の興味関心]

[小学校の指導状況]

算数の勉強は好きですか

全国R6	34.0	27.0	21.4	17.7
長野県R6	32.0	30.2	22.8	15.1
長野県R5	33.2	30.4	22.3	14.0
長野県R4	34.7	29.3	22.4	13.6

当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない

実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか

全国R6	27.6	64.7	7.6
長野県R6	23.4	67.4	9.1
長野県R5	24.1	63.2	12.7
長野県R4	15.4	58.9	25.7

よく行った
 どちらかといえば、行った
 あまり行っていない
 全く行っていない

算数の勉強は大切だと思いますか

全国R6	74.3	20.3	3.3	2.1
長野県R6	73.6	21.2	3.3	1.8
長野県R5	75.8	18.9	3.8	1.4
長野県R4	75.9	19.0	3.4	1.7

当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない

具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動を行いましたか

全国R6	35.9	58.7	5.3
長野県R6	34.3	61.7	4.0
長野県R5	32.9	61.2	5.9
長野県R4	26.9	65.4	7.4

よく行った
 どちらかといえば、行った
 あまり行っていない
 全く行っていない

算数の授業の内容はよく分かりますか

全国R6	44.9	37.2	13.1	4.8
長野県R6	42.1	40.8	13.0	4.0
長野県R5	42.0	39.5	14.0	4.5
長野県R4	42.1	40.0	13.8	4.1

当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない

問題の答えを求めさせるだけではなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、児童に筋道を立てて説明させるような授業を行いましたか(新規)

全国R6	44.0	52.2	3.6
長野県R6	40.6	53.4	6.0

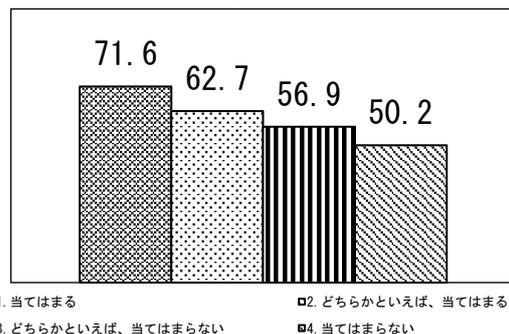
よく行った
 どちらかといえば、行った
 あまり行わなかった
 全く行わなかった

算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

全国R6	71.7	22.4	4.0	1.8
長野県R6	72.3	22.4	3.7	1.5
長野県R5	74.7	20.2	3.4	1.4
長野県R4	75.4	18.7	4.1	1.6

当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない

「算数の勉強は好きですか」の選択肢毎の平均正答率(%)



(2) 生徒の興味関心と中学校の指導状況

- 生徒の興味関心について、肯定的に回答した生徒の割合は、全ての項目において、全国と同程度、または全国を上回っている、令和5年度より増加している。
- 学校における指導状況について、肯定的に回答した生徒の割合は、全ての質問項目において、全国を上回っている。特に、「問題の答えを求めさせるだけではなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、生徒に筋道を立てて説明させるような授業を行いましたか」は95%を超えている。
- 「数学の勉強が好き」と回答した生徒の方が、平均正答率が高い傾向が見られる。

[生徒の興味関心]

数学の勉強は好きですか

全国R6	29.4	27.8	24.7	17.8
長野県R6	28.4	29.8	26.3	15.4
長野県R5	27.5	28.9	25.9	17.5
長野県R4	28.7	29.7	26.4	15.2

当てはまる どちらかといえば、当てはまる どちらかといえば、当てはまらない 当てはまらない

[中学校の指導状況]

実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか

全国R6	22.3	66.2	11.3	0.1
長野県R6	17.6	72.3	10.1	
長野県R5	27	64.9	8.1	
長野県R4	19.8	66.3	13.9	

よく行った どちらかといえば、行った あまり行っていない 全く行っていない

数学の勉強は大切だと思いますか

全国R6	52.8	34.4	8.8	3.6
長野県R6	52.5	35.5	8.5	3.0
長野県R5	49.4	35.8	10.5	4.0
長野県R4	51.8	36.4	9.0	2.7

当てはまる どちらかといえば、当てはまる どちらかといえば、当てはまらない 当てはまらない

観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形等の性質を見いだす活動を行いましたか

全国R6	22.7	63.0	13.8	0.3
長野県R6	22.9	66.5	10.6	
長野県R5	22.2	69.7	8.1	
長野県R4	20.3	62.6	16.6	0.5

よく行った どちらかといえば、行った あまり行っていない 全く行っていない

数学の授業の内容はよく分かりますか

全国R6	35.1	40.6	17.2	6.6
長野県R6	36.4	42.7	15.7	4.7
長野県R5	33.4	41.1	18.3	6.9
長野県R4	38.2	41.7	15.5	4.5

当てはまる どちらかといえば、当てはまる どちらかといえば、当てはまらない 当てはまらない

問題の答えを求めさせるだけではなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、生徒に筋道を立てて説明させるような授業を行いましたか(新規)

全国R6	41.6	53.2	5.0
長野県R6	47.3	50.5	1.6

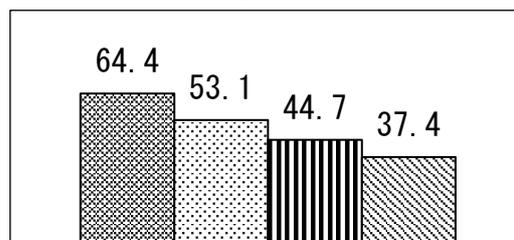
よく行った どちらかといえば、行った あまり行わなかった 全く行わなかった

数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

全国R6	40.0	38.5	15.3	5.7
長野県R6	40.2	39.6	15.0	4.7
長野県R5	39.3	36.9	16.9	6.4
長野県R4	41.0	36.9	16.3	5.7

当てはまる どちらかといえば、当てはまる どちらかといえば、当てはまらない 当てはまらない

「数学の勉強は好きですか」の選択肢毎の平均正答率(%)



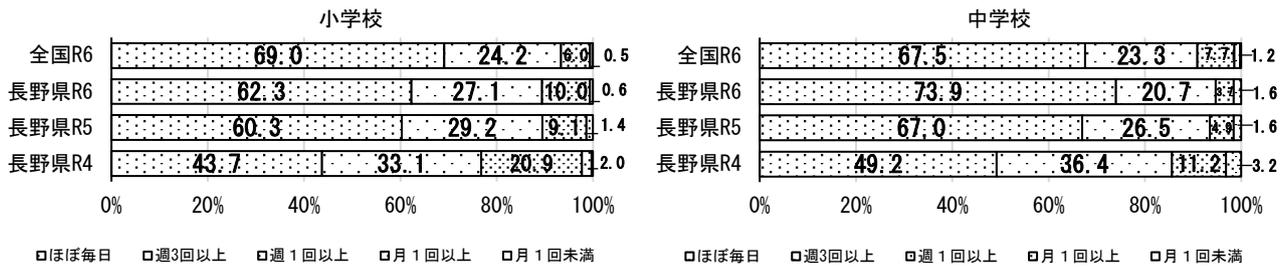
1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない

5 ICT を活用した学習状況

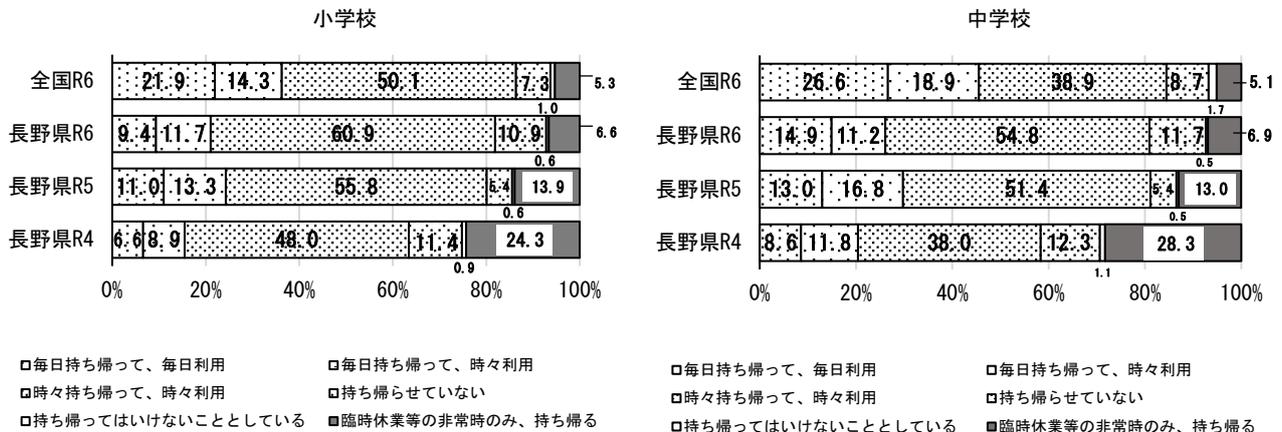
(1) ICT の活用状況等①

- 「児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用したか」について、週3回以上（「ほぼ毎日」も含む）と回答した割合は、小学校は令和5年度と同程度で、全国を下回っている。中学校では令和5年度より増加し、全国を上回っている。
- 「児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしているか」について、「毎日持ち帰って毎日使用している」、「毎日持ち帰って時々使用している」と回答した児童生徒の割合は、全国を下回り令和5年度より減少している。

【学校質問】前年度までに、児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか



【学校質問】児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか

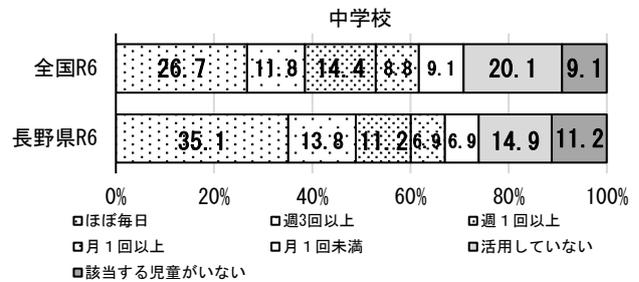
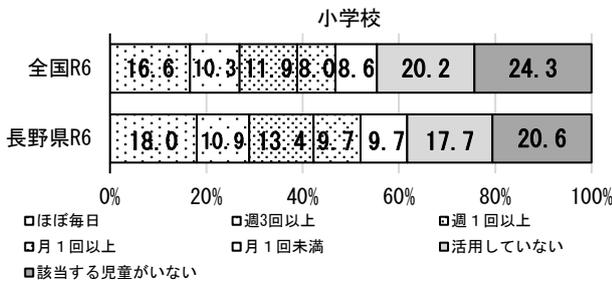


(1) ICTの活用状況等②

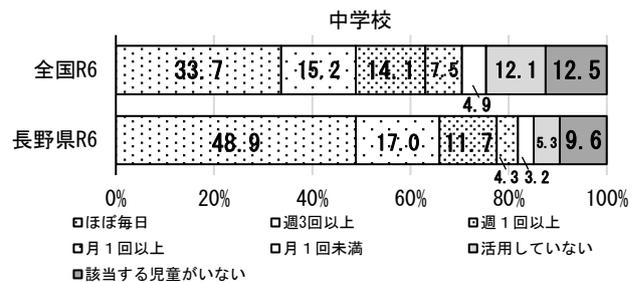
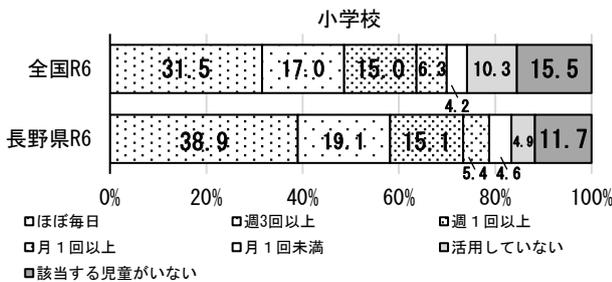
- 「児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、不登校児童（生徒）に対する学習活動等の支援に活用している」について、週3回以上（「ほぼ毎日」も含む）と回答した割合は、小学校、中学校ともに全国を上回っている。特に中学校では45%を超えている。
- 「児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、特別な支援を要する児童（生徒）に対する学習活動等の支援に活用している」について、週3回以上（「ほぼ毎日」も含む）と回答した割合は、小学校、中学校ともに全国を上回り、60%程度の状況となっている。また、活用していないと回答した割合が全国を下回っている。
- 「児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、外国人児童（生徒）に対する学習活動等の支援に活用している」について、週3回以上（「ほぼ毎日」も含む）と回答した割合は、小学校は全国と同程度で、中学校は全国を上回っている。

【学校質問】 児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、以下のような用途でどの程度活用していますか

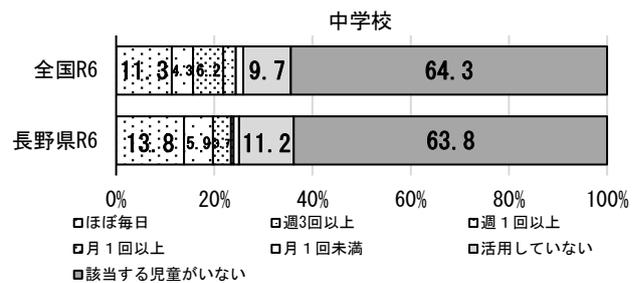
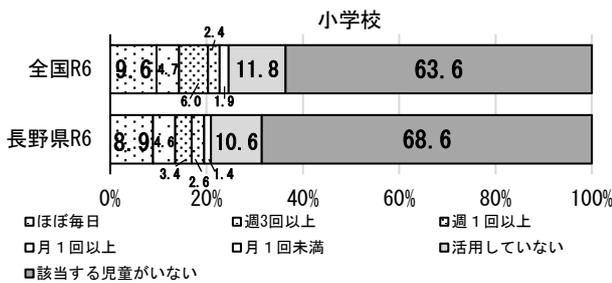
■不登校児童生徒に対する学習活動等の支援



■特別な支援を要する児童生徒に対する学習活動等の支援



■外国人児童生徒に対する学習活動等の支援

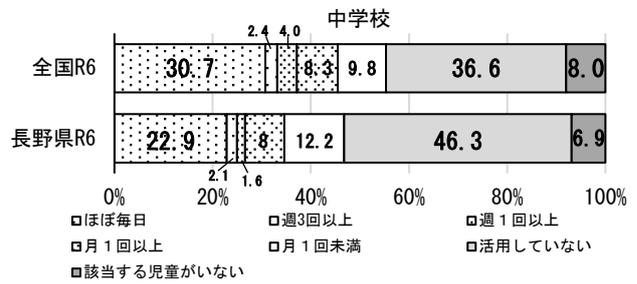
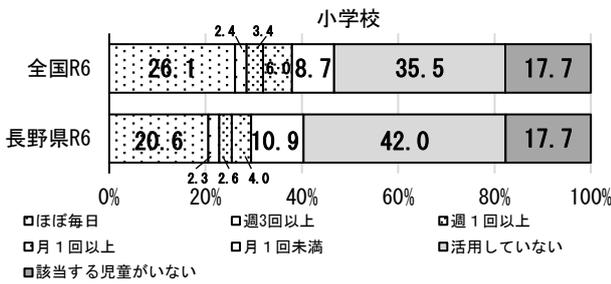


(1) ICTの活用状況等③

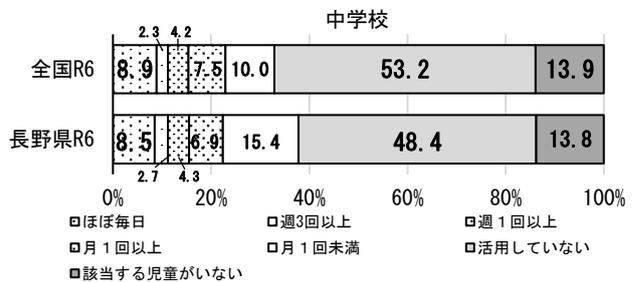
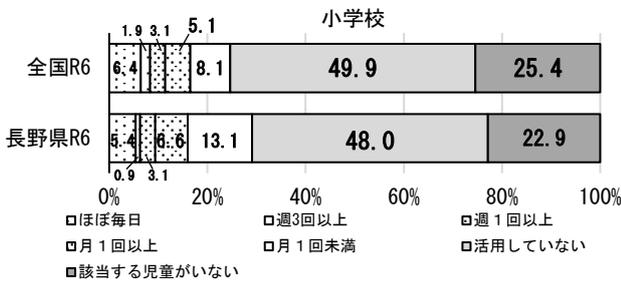
- 「児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、児童（生徒）の心身の状況の把握に活用している」について、週3回以上（「ほぼ毎日」も含む）と回答した割合は、小学校、中学校ともに全国を下回っている。また、活用していないと回答した割合は、全国を上回っている。
- 「児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、児童（生徒）に対するオンラインを活用した相談・支援に活用している」について、活用していないと回答した割合は、全国を下回っている。

【学校質問】児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、以下のよう
な用途でどの程度活用していますか

■児童生徒の心身の状況の把握



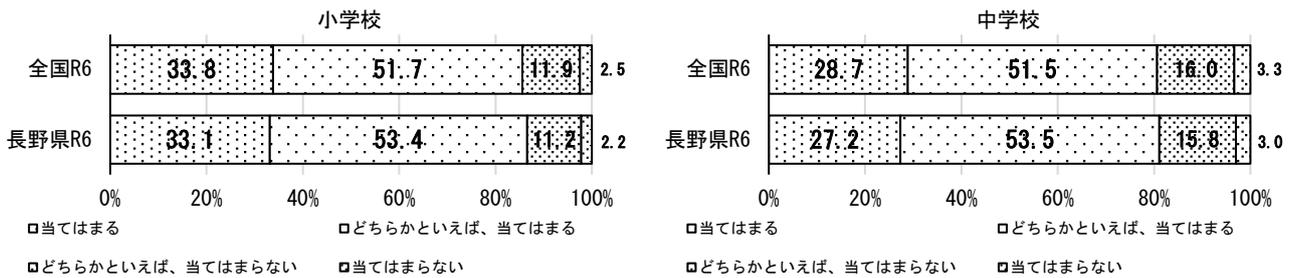
■児童生徒に対するオンラインを活用した相談・支援



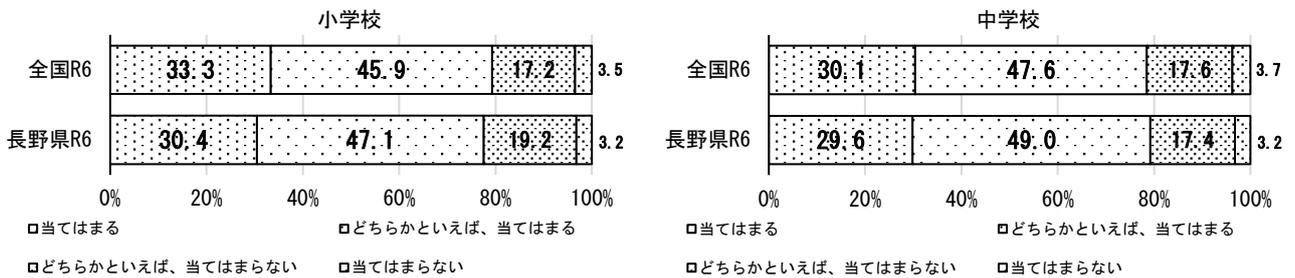
(2) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実にかかわる ICT の活用状況等①

- 「ICT 活用で、自分のペースで理解しながら学習を進めることができる」について、肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国を上回り 80%を超えている。
- 「ICT 活用で、自分の考えや意見をわかりやすく伝えることができる」について、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学校では全国を下回っている。中学校では全国を上回っている。
- 「ICT 活用で、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」について、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学校では全国を下回り、中学校では全国を上回った。

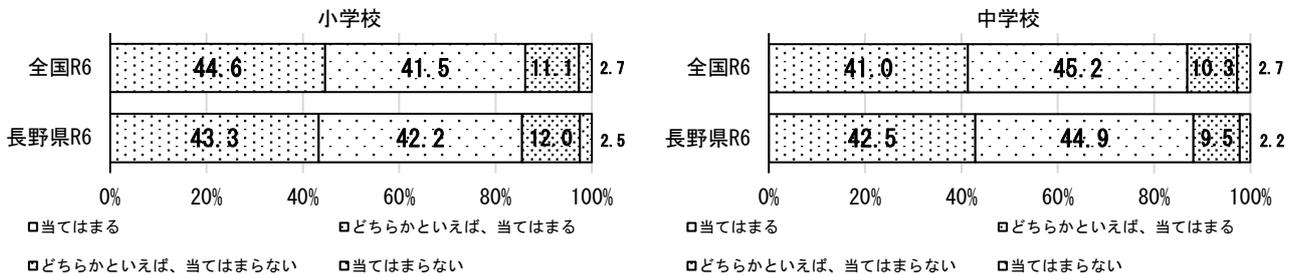
【児童生徒質問】 ICT 機器の活用で、自分のペースで理解しながら学習を進めることができる（新規）



【児童生徒質問】 ICT 活用で、自分の考えや意見をわかりやすく伝えることができる（新規）



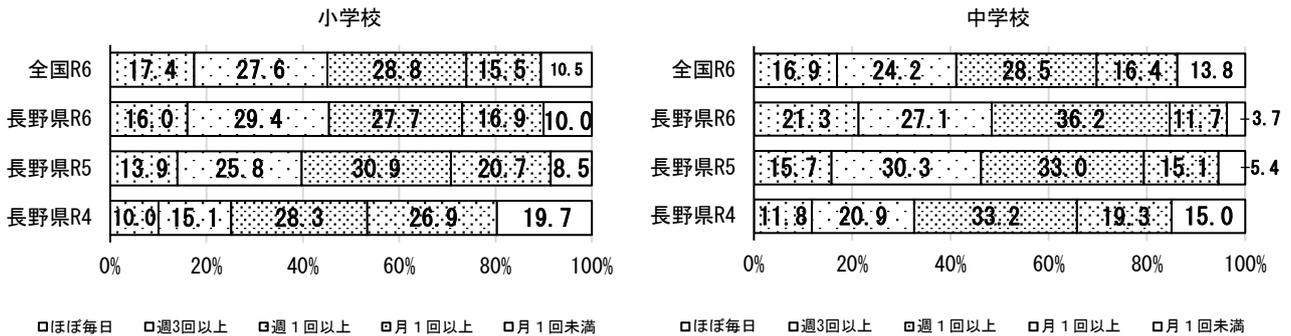
【児童生徒質問】 ICT 活用で、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる（新規）



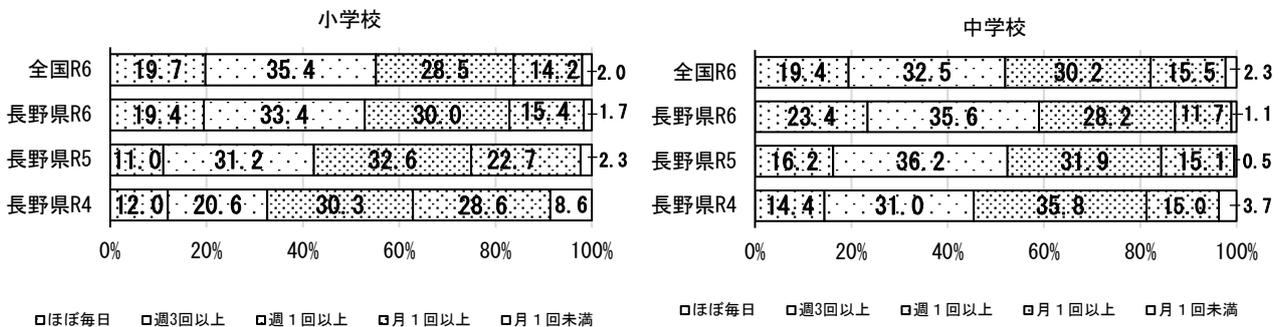
(2) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実にかかわる ICT の活用状況等②

- 「児童（生徒）同士がやりとりする場面では、児童（生徒）一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用させているか」について、週3回以上（「ほぼ毎日」も含む）と回答した割合は、小学校、中学校ともに令和5年度より上昇している。特に中学校は、全国を7ポイント以上上回っている。
- 「児童（生徒）が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童（生徒）一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用させているか」について、週3回以上（「ほぼ毎日」も含む）と回答している割合は、小学校、中学校ともに令和5年度を上回り、特に中学校では全国を上回り、50%を超えている。

【学校質問】 調査対象学年の児童（生徒）同士がやりとりする場面では、児童（生徒）一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用させていますか



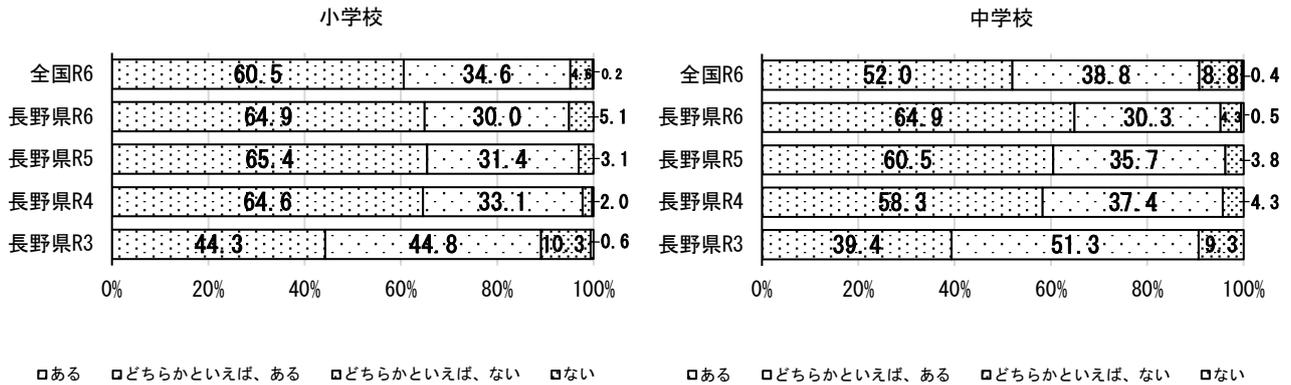
【学校質問】 調査対象学年の児童（生徒）が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童（生徒）一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用させていますか



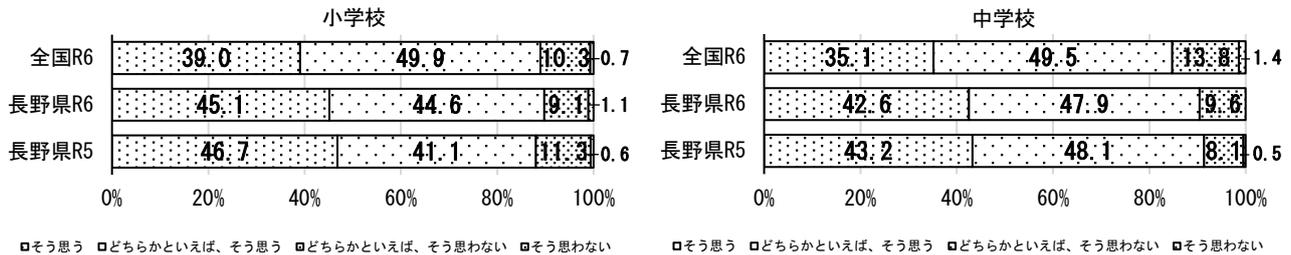
(3) ICTの活用を推進するための有効な取組

- 「教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会があるか」について、「ある」「どちらかといえば、ある」と回答した割合は、小学校、中学校ともに令和5年度同様90%を超えている。
- 「コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校内外において十分に必要なサポートが受けられているか」について、「ある」「どちらかといえば、ある」と回答した小学校の割合は、全国同様85%を超えていて、中学校は全国を上回り、90%を超えている。

【学校質問】 教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がありますか



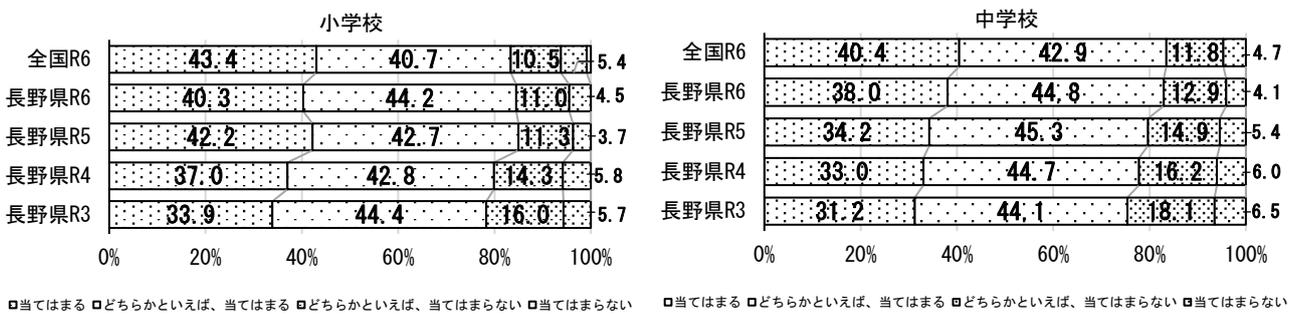
【学校質問】 コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校内外において十分に必要なサポートが受けられていますか



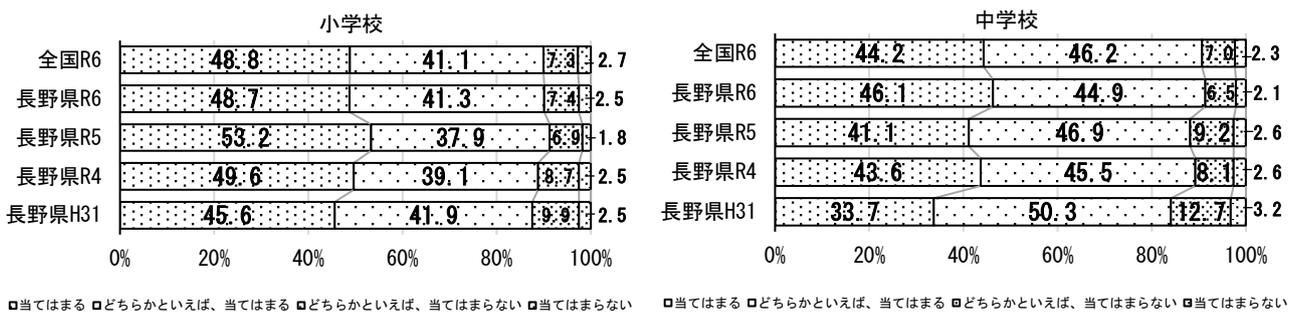
6 児童生徒の挑戦心、自己有用感、幸福感等に関する状況

- 「自分には、よいところがあると思うか」について肯定的に回答した児童生徒の割合は、ともに80%を超えている。特に児童の割合は、全国を上回り、生徒の割合は令和3年度から増加し続けている。
- 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思うか」について肯定的に回答した児童生徒の割合は、ともに全国を上回っており、90%程度となっている。
- 「将来の夢や目標を持っているか」について肯定的に回答した児童の割合は、全国ならび令和5年度と同程度であったが、生徒の割合は全国と令和5年度を上回っている。
- 「学校に行くのは楽しいと思うか」について肯定的に回答した児童の割合は、全国と令和5年度を下回り、生徒の割合は令和5年度を上回っている。
- 「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思うか」について肯定的に回答した児童生徒の割合は、令和5年度を下回っているが、全国を上回っている。
- 「友達関係に満足しているか」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいあるか」について肯定的に回答した児童生徒の割合は、いずれも全国同様、90%程度である。
- 「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うか」について肯定的に回答した児童生徒の割合は、ともに全国と令和5年度を上回っている。

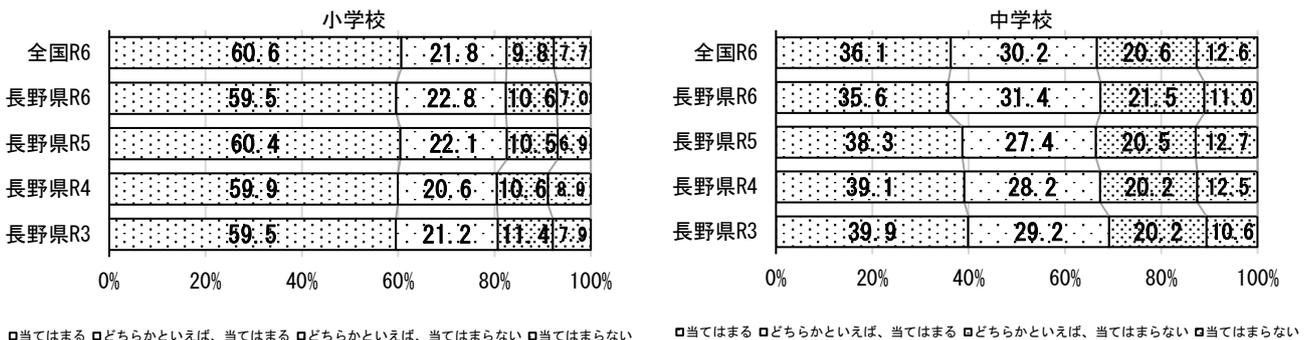
【児童生徒質問】自分には、よいところがあると思いますか



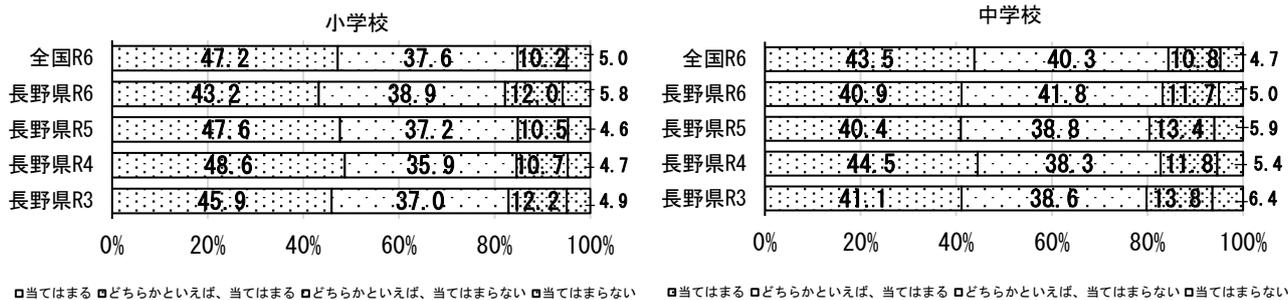
【児童生徒質問】先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



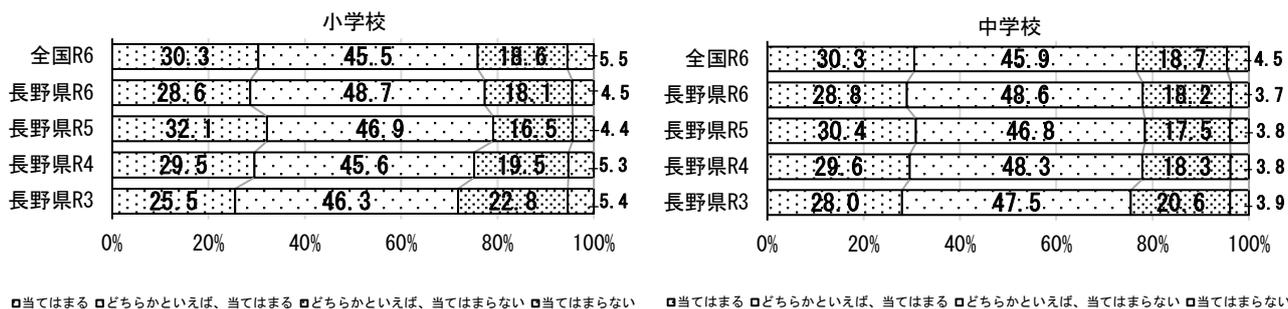
【児童生徒質問】将来の夢や目標を持っていますか



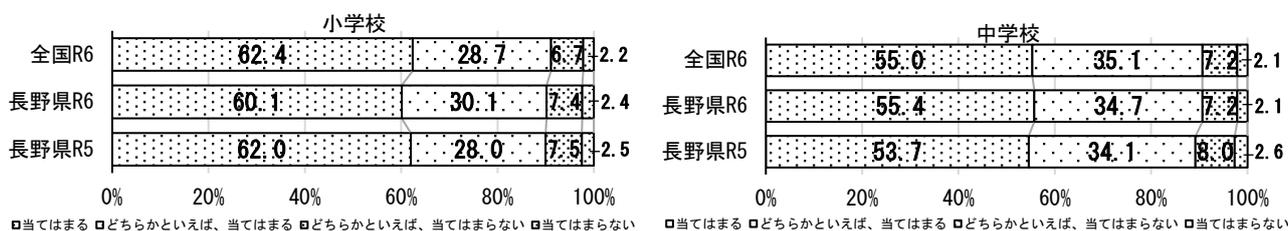
【児童生徒質問】 学校に行くのは楽しいと思いますか



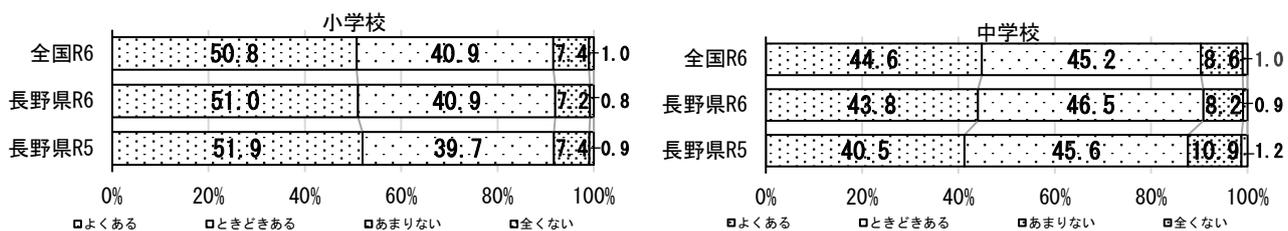
【児童生徒質問】 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか



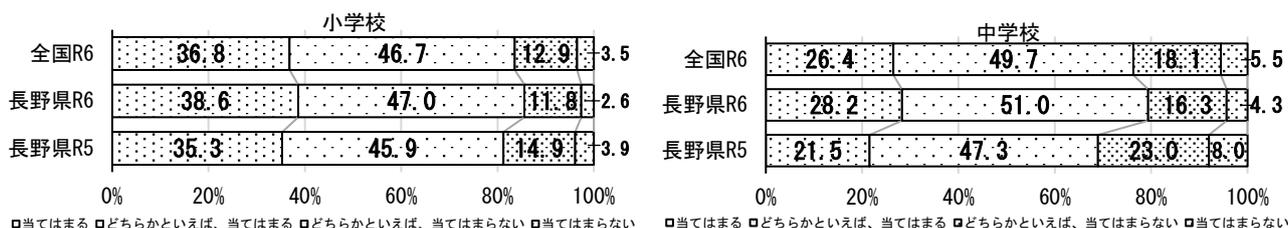
【児童生徒質問】 友達関係に満足していますか



【児童生徒質問】 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか



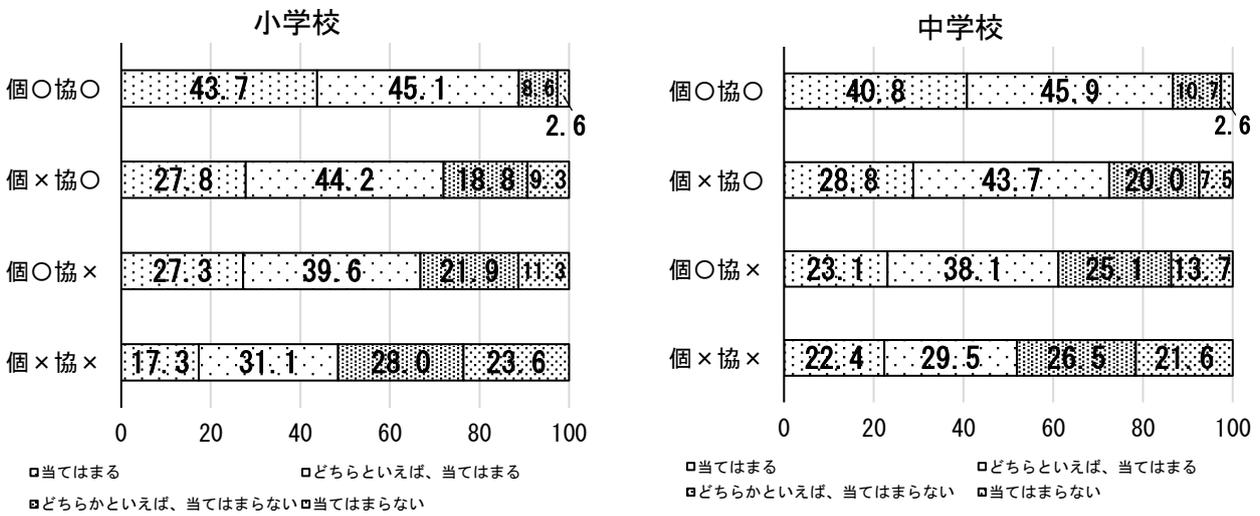
【児童生徒質問】 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか



7 幸福感に関する質問とのクロス集計 ※文部科学省総合教育政策局が示した質問項目を参考に作成

- 「個別最適な学び（自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたか）」と「協働的な学び（友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか）」の両方に取り組んだと回答している児童生徒（個○協○）の、「自分にはよいところがあると思う」について肯定的に回答している割合は85%を超えている。また、他の回答（個×協○、個○協×、個×協×）よりも肯定的な回答の割合が高い。
- 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の両方に取り組んだと回答している児童生徒（個○協○）の、「学校へ行くのは楽しい」について肯定的に回答している割合は85%を超えている。また、他の回答（個×協○、個○協×、個×協×）よりも肯定的な回答の割合が高い。

「個別最適な学び」 × 「協働的な学び」 × 「自分にはよいところがあると思う」



「個別最適な学び」 × 「協働的な学び」 × 「学校へ行くのは楽しい」

